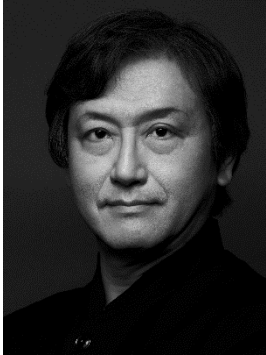


## Contents

オペラ次期芸術監督 大野和士 .....	2
<hr/>	
2018/2019シーズン オペラ ラインアップ .....	4
魔笛 .....	5
カルメン .....	10
ファルスタッフ .....	14
タンホイザー .....	19
紫苑物語 .....	24
ウェルテル .....	29
フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ .....	33
ドン・ジョヴァンニ .....	38
蝶々夫人 .....	43
オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World	
トゥーランドット .....	48
<hr/>	
平成30年度公演 .....	55
平成30年度 新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室	
トスカ .....	56
平成30年度 新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演	
魔笛 .....	58
<hr/>	
公演一覧(1997.10~2018.7) .....	60

## 2018/2019 シーズン オペラ

### オペラ次期芸術監督 大野和士



2017/2018シーズンに開場20周年を迎えるこの劇場に素晴らしい歴史を積み上げてくださった先人の先生方の跡を継ぐことに、この上ない責任を感じると共に、今後新たな創造に向かって限りなく邁進する覚悟であります。この度は、新国立劇場を応援してくださるすべての皆様に、来る新シーズンのラインアップをご紹介できることを大変な喜びと感じております。

就任に先立ちまして、私が今後目指す大きな目標として、皆様に次の5つの点をお伝えしたいと思います。

第1に、レパートリーの拡充。新国立劇場はこれまで年間3演目の新制作を行ってきましたが、それを4演目に増やすことを計画しています。この枠の中で、新国立劇場の公演が世界初演出になるようなプロダクションを制作する他、現在まさに世界のオペラ界を席卷している旬の演出家の評判のプロダクションを積極的にご紹介していきたいと思っております。新国立劇場はこれまでも、20世紀の優れた作品などを果敢に上演して参りましたが、海外の劇場からのレンタルの関係で、一度限りの上演の後、元の劇場に帰ってしまう場合も多く、新国立劇場の誇る多彩なパレットに、その全てを加えることができませんでした。そこで海外のプロダクションを導入するにあたっては、繰り返し再演できるようにするシステム作りを目指します。

第2は、日本人作曲家委嘱作品シリーズの開始です。これは1シーズンおきに、日本を代表する作曲家に新作オペラを委嘱するものですが、その作品の創造過程では、これまでにないような、作曲家、台本作家、演出家、芸術監督との間での綿密な協議が重ねられ、最終的に音楽的にも、演劇的にも、日本オペラの歴史に新機軸を打ち出すことを目指します。その中から海外の劇場に引き継がれる日本オペラが生まれてくることを頭に描きながら。

第3は、2つの1幕物オペラ（通称ダブルビル）の新制作と、バロック・オペラの新制作を1年おきに行うこと。ダブルビルでは、例えば1年目は、プッチーニ作曲『ジャンニ・スキッキ』とツェムリンスキー作曲の『フィレンツェの悲劇』がカップリングされますが、その次には、例えば『ジャンニ・スキッキ』と他の1幕ものを組み合わせることによって、一晩の公演とし、結果、一挙に演目を増やしていく意図に基づいています。“まさに一粒で二度おいしい”企画と言えます。また、今まで新国立劇場では、まだバロック・オペラが舞台上演されていないということですので、2019/2020シーズン以降に登場するこの新しいオペラジャンルにも是非ご期待いただけたらと思います。

第4は、旬の演出家、歌手をリアルタイムで皆様にお届けすることです。新制作で招聘する3人の演出家は、私自身共演の機会もあり、新時代の創造者として、また、オペラの舞台にそれぞれに独特な美しい視覚的体験をもたらす巨匠として、長らく皆様にご紹介いたしたいと思っていた方々です。歌手については、国際的な歌手に加え、重要な役にも優秀な日本人歌手を起用。これまで新国立劇場を支えてきた日本人歌手のみならず、海外で活躍する才能ある日本人歌手のニューフェイスもご紹介させていただければと思っています。

第5は、積極的な他の劇場とのコラボレーションです。今後、新国立劇場で、著名な演出家によって創造されるワールド・プレミアの機会を積極的に作って参りますので、それが海外の歌劇場との共同制作を通して、日本発のオペラ新演出が世界に広まるという新しい時代を切り開きたいと思っております。既に、私と幾つかの劇場の総監督との間では、具体的な共同制作の話が始まっており、実現の暁には、古典的なオペラのレパートリーが東京から海外へと発信される大変名誉な例となることでしょう。同時に、国内の劇場や新国立劇場の他部門（演劇、舞踊、研修所）との連携も強化していきたいと思っております。

具体的に、このシーズンで取り上げる新制作4演目についてご紹介させていただきます。

『魔笛』は、南アフリカ出身の現代美術の巨匠、オペラ演出におけるプロジェクションの魔術師として知られるウィリアム・ケントリッジによるプロダクションです。2005年にモネ劇場で初演されたのち、十数か所の劇場で上演されヨーロッパで大評判となりました。

続いて、日本人作曲家委嘱作品シリーズの第1弾である、西村朗作曲『紫苑物語』（石川淳原作）。演出は日本人オペラ演出家で唯一無二の世界的名声を誇る、笈田ヨシです。物語は、歌人の家に生まれた才能ある若者が、自分の存在意義を求めてさまよう、‘ある芸術家の人生’。ある意味でオペラによる日本の『ジャン・クリストフ』とでもいえばよろしいでしょうか。石川淳の耽美的で情熱的な世界を、西村、笈田のコンビがどのようにオペラに移し替えるか興味がつきません。

次に、1幕ものを二つ合わせて一晩に上演するツェムリンスキー作曲『フィレンツェの悲劇』とプッチーニ作曲『ジャンニ・スキッキ』のダブルビル。両作品ともフィレンツェを舞台とする、片や男女の三角関係を描いたオスカー・ワイルド原作に基づく悲劇、もう一方は、ダンテの『神曲』‘地獄篇’に題を得た、遺産相続をめぐる、てんやわんやの喜劇です。ダブルビル第一回目の演出は、イタリア語を自由に操り、日本オペラ界に新しい指針をもたらした栗國淳です。

最後は、『トゥーランドット』。オペラ・演劇制作集団であるスペインの“ラ・フーラ・デルス・ハウス”の芸術監督であり、現在世界のオペラ界で引っ張りだこのアレックス・オリエが東京で初めてオペラを演出、プッチーニの新制作を世界へ発信します。彼が世界初演出を東京で行うことは、オペラ界の大きな話題となることでしょう。

再演6演目には、新国立劇場の誇るレパートリーから、イタリア、ドイツ、フランスのプロダクションをバランスよく取り上げました。

指揮者陣については、スカラ座での“ケントリッジの魔笛”を指揮したローラント・ベア、ヴェローナ野外音楽祭でもおなじみの『カルメン』の指揮者ジャン＝リュック・タンゴー、ドレスデンやナポリでデビューが続いている、『ドン・ジョヴァンニ』の指揮者、若いイタリアの俊英フランチェスコ・ランツィロットタといったフレッシュな顔ぶれに、オペラ指揮者として確固たるキャリアを築いているカルロ・リッツィ（『ファルスタッフ』）、ポール・ダニエル（『ウェルテル』）、アッシャー・フィッシュ（『タンホイザー』）という布陣です。

歌手陣は、タミーノ役でヨーロッパを飛び回っているスティーヴ・ダヴィスリム、パミーナ役、日本の名花、林正子。カルメン役、メトロポリタン歌劇場にもデビューの“カルメン歌い”ジンジャー・コスタ＝ジャクソン、ファルスタッフ役、イタリアの大御所ロベルト・デ・カンディア、タンホイザー役、ワーグナーのオペラのタイトルロールで飛ぶ鳥を落とす勢いのトルステン・ケール、ドン・ジョヴァンニ役、洒脱で芳醇なワインの香りのようなニコラ・ウリヴィエリ、『トゥーランドット』は、イレーネ・テオリン、リッカルド・ザネッラートに二人の輝ける日本人ソプラノ中村恵理、砂川涼子らの夢の共演。また、我が国の誇り、藤村実穂子が満を持して『ウェルテル』のシャルロットで登場するのも大きな見どころです。

オペラパレスで皆様とご一緒に、夢を追いかけることができたらどんなに素晴らしいことでしょう。

#### 〈プロフィール〉

東京生まれ。東京藝術大学卒。ピアノ、作曲を安藤久義氏、指揮を遠藤雅古氏に師事。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。

1987年イタリアの「トスカニーニ国際指揮者コンクール」優勝。以後、世界各地でオペラ公演ならびにシンフォニーコンサートで客演で聴衆を魅了し続けている。

90～96年クロアチア、ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年ドイツ、バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）音楽監督。12～15年イタリアのアルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団ならびにバルセロナ交響楽団音楽監督。

オペラでは、07年6月にミラノ・スカラ座デビュー。その後、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭への出演などが相次いでいる。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。

17年5月、大野和士が9年間率いたリヨン歌劇場は、インターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス2017」を獲得。6月にはフランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受勲。同時にリヨン市からもリヨン市特別メダルが授与された。

16年9月より新国立劇場オペラ芸術参与。18年9月よりオペラ芸術監督に就任予定。

2018/2019 シーズン オペラ ラインアップ  
〈新制作4演目／レパートリー6演目 合計10演目46公演〉

2018年10月

**新制作**

## 魔笛

Die Zauberflöte | W. A. モーツァルト  
6回公演

2018年11月～12月

## カルメン

Carmen | G. ビゼー  
6回公演

2018年12月

## ファルスタッフ

Falstaff | G. ヴェルディ  
4回公演

2019年1月～2月

## タンホイザー

Tannhäuser | R. ワグナー  
5回公演

2019年2月

**新制作**

**創作委嘱作品・世界初演**

## 紫苑物語

Asters | 西村 朗  
4回公演

2019年3月

## ウェルテル

Werther | J. マスネ  
4回公演

2019年4月

**新制作**

## フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ

Eine florentinische Tragödie/ Gianni Schicchi |  
A. ツェムリンスキー/G. プッチーニ  
4回公演

2019年5月

## ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni | W. A. モーツァルト  
5回公演

2019年6月

## 蝶々夫人

Madama Butterfly | G. プッチーニ  
4回公演

2019年7月

**新制作**

オペラ夏の祭典 2019-20 Japan↔Tokyo↔World

## トゥーランドット

Turandot | G. プッチーニ  
4回公演

# 魔笛

2018年10/3~14  
＜新制作＞  
New Production

Die Zauberflöte

オペラパレス | 6回公演 | 全2幕(ドイツ語上演/字幕付)

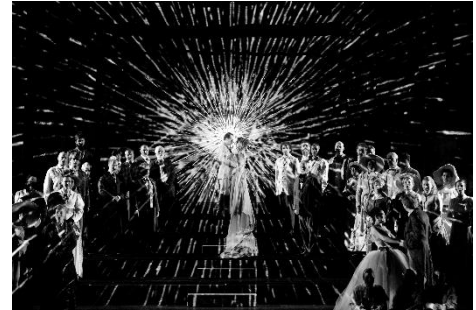
●会員先行販売期間: 2018年6/3(日)~6/19(火)

●一般発売日: 2018年6/23(土)

初演: 1791年9月30日 / アウフ・デア・ヴィーデン劇場

作曲: ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

台本: エマヌエル・シカネーダー



La Flûte enchantée (Die Zauberflöte) by W. A. Mozart  
© Elisabeth Carecchio - Festival d'Aix-en-Provence 2009

## プロダクションについて

オペラ次期芸術監督大野和士が就任を記念する作品に選んだのはモーツァルトの傑作『魔笛』。“ジングシュピール”（歌芝居）として有名なこの作品は、「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲、はたまた夜の女王の歌う有名なアリア「地獄の復讐はわが心に燃え」と、聴きどころ満載です。今回大野次期監督が選んだのは、南アフリカ出身のヴィジュアルアーティストで、メトロポリタン歌劇場、ザルツブルク音楽祭と今、世界のオペラ界を席卷しているウィリアム・ケントリッジのプロダクション。映像を大胆に取り入れる演出の先駆けとなった本プロダクションは2005年のブリュッセル・モネ劇場を皮切りに、ミラノ・スカラ座、エクサンプロヴァンス音楽祭など、世界中で大人気を博しました。ヨーロッパでの豊かな経験を元に、現代性を保ちつつ、音楽を裏切らない美しい舞台を、という大野次期監督の思いが凝縮した舞台です。スカラ座公演を指揮したベアーをはじめ、シュエン、ダヴィスリム、ヴェミッチと今伸び盛りの若手に、現在まさに国際的水準にある日本人歌手も加わり、新たな時代の始まりを祝います。

## あらすじ

【第1幕】森で大蛇に襲われ、恐ろしさの余り気絶してしまった王子タミーノ。そこに夜の女王に仕える3人の侍女がやってきて大蛇を退治し立ち去る。タミーノが目覚めると大蛇が死んでいるのにびっくり。やってきた鳥さしのパパゲーノに尋ねてみると、大蛇を退治したのは自分だと誇らしげに語る。が、それは嘘で、罰として3人の侍女がパパゲーノの口に鍵をかけてしまう。3人の侍女は、夜の女王の娘パミーナの肖像画をタミーノに見せ、邪悪なザラストロにさらわれた彼女を救ってほしいと願う。パミーナに一目惚れしたタミーノは引き受ける。お礼に夜の女王は、タミーノに魔法の笛、口の鍵の解けたパパゲーノに銀の鈴を授ける。

ザラストロの神殿にいるパミーナのもとにパパゲーノが行き、タミーノが助けにくることを伝える。喜ぶパミーナ。タミーノは神殿の門に到着するが、弁者によれば、ザラストロは暴君ではなく賢人で、高慢な夜の女王からパミーナをかくまっているのだという。そしてザラストロが登場。タミーノとパパゲーノは神殿に招き入れられる。

【第2幕】タミーノは、徳と正義を得るため神殿で試練を受けることに。これを経れば妻に会えると言われたパパゲーノも、しぶしぶ承諾する。一方パミーナのもとには夜の女王が現れ、ザラストロを殺せ、と命じて短剣を渡す。悩むパミーナに、ザラストロは、神殿では愛だけが暴力に打ち勝つ、と語る。タミーノとパパゲーノの最初の試練は、喋ってはいけない「沈黙」の試練。タミーノはパミーナとも喋れず、次の試練のため彼女と別れねばならない。彼の態度にパミーナは絶望して自殺をはかるが、3人の童子が止める。その後タミーノとパミーナは再会し、最後の「火」「水」の試練を2人で乗り越える。女房がほしいとぼやくパパゲーノは試練などお構いなしだが、努力は認められ、伴侶のパパゲーノと出会う。夜の女王たちは滅び、ザラストロ、タミーノ、パミーナたちは神を讃える。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

# 魔笛

Wolfgang Amadeus MOZART / Die Zauberflöte  
全2幕(ドイツ語上演/字幕付)

指揮 .....	ローラント・ベアー
Conductor	Roland BÖER
演出 .....	ウィリアム・ケントリッジ
Production	William KENTRIDGE
演出補 .....	リュック・ド・ヴィット
Co-director	Luc DE WIT
美術 .....	ウィリアム・ケントリッジ、ザビーネ・トイニッセン
Set Design	William KENTRIDGE, Sabine THEUNISSEN
衣裳 .....	グレタ・ゴアリス
Costume Design	Greta GOIRIS
照明 .....	ジェニファー・ティプトン
Lighting Design	Jennifer TIPTON
プロジェクション .....	キャサリン・メイバーク
Projection Design	Catherine MEYBURGH
映像オペレーター .....	キム・ガニング
Video Operator	Kim GUNNING
照明監修 .....	スコット・ボルマン
Supervisor for the Lighting	Scott BOLMAN
ザラストロ .....	サヴァ・ヴェミッチ
Sarastro	Sava VEMIC
タミーノ .....	スティーヴ・ダヴィスリム
Tamino	Steve DAVISLIM
弁者・武士II .....	成田 真
Sprecher und zweiter Geharnischter	NARITA Makoto
僧侶・武士I .....	秋谷直之
Eingeweihter und erster Geharnischter	AKITANI Naoyuki
夜の女王 .....	安井陽子
Königin der Nacht	YASUI Yoko
パミーナ .....	林 正子
Pamina	HAYASHI Masako
侍女I .....	増田のり子
Erste Dame	MASUDA Noriko
侍女II .....	小泉詠子
Zweite Dame	KOIZUMI Eiko
侍女III .....	山下牧子
Dritte Dame	YAMASHITA Makiko
パパゲーナ .....	九嶋香奈枝
Papagena	KUSHIMA Kanae
パパゲーノ .....	アンドレ・シュエン
Pagageno	André SCHUEN
モノスタス .....	升島唯博
Monostatos	MASUJIMA Tadahiro
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

Production of Aix-en-Provence Festival and Rouen Opera, created at Théâtre de la Monnaie in 2005

2018年 10月	3日(水)18:30	6日(土)14:00	8日(月・祝)14:00
	10日(水)14:00	13日(土)14:00	14日(日)14:00

オペラパレス

【チケット料金】 S:27,000円 ・ A:21,600円 ・ B:15,120円 ・ C:8,640円 ・ D:5,400円

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

### 指揮:ローラント・ベアー

Conductor: Roland BÖER

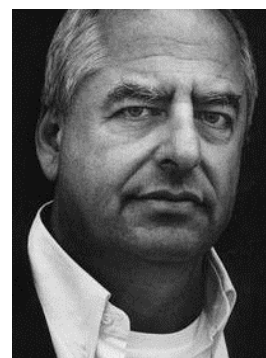
ドイツ生まれ、フランクフルト歌劇場のカペルマイスターとして活躍後、アントニオ・パッパーノのアシスタントを務める。その後、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、プラハ国立歌劇場、ブリュッセル・モネ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ウィーン・フォルクスオーパー、ストックホルム王立歌劇場など、欧州各地の歌劇場に招かれ、『魔笛』『アドリアーナ・ルクヴルール』『リゴレット』『愛の妙薬』『ヴェニスに死す』など、幅広いレパートリーを指揮している。コンサートでも活躍し、スカラ・フィルハーモニー管弦楽団、ローマ・サンタ・チェチーリア管弦楽団、ロンドン交響楽団、フィルハーモニア管弦楽団、ロイヤル・リヴァプール管弦楽団、フランクフルト放送交響楽団、バンベルク交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、スコティッシュ・チェンバー・オーケストラ、アンサンブル・モデルンなどに登場している。また2009年よりカントイエーレ国際芸術祭音楽監督、2015年からは芸術監督を務めている。新国立劇場初登場。



### 演出:ウィリアム・ケントリッジ

Production: William KENTRIDGE

南アフリカ生まれ。政治学及びアフリカ学を学んだ後、ヨハネスブルク・アート・ファンデーションさらにパリ・エコール・ルコックで学ぶ。劇場、とくに演技とデザインの結びつきに興味を持ち、映画と絵画を結びつけるスタイルを確立した。パステル、もしくはチャコールの手書きによるアニメーションによる作品が多いが、彫刻、タペストリーなど、様々な分野で活躍している。1990年代より国際的に評価を高め、ニューヨーク近代美術館、ウィーン・アルベルティーナ、サンフランシスコ近代美術館、フィラデルフィア美術館、ルーヴル美術館、メトロポリタン美術館などで個展が開かれているほか、ゴスラーの皇帝の指環賞、カーネギー賞、スタンダード銀行ヤングアーティスト賞、レッドリボン短編映画賞、京都賞、フランス芸術文化勲章コマンドゥールなど、受賞歴も枚挙のいとまがない。近年はオペラ演出も多く、『ウリッセの帰還』『魔笛』『鼻』『ルル』『ヴォツェック』といった作品で、ブリュッセル・モネ劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ネザーランド・オペラ、ザルトブルク音楽祭、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座などに登場している。新国立劇場初登場。



### ザラストロ:サヴァ・ヴェミッチ

Sarastro: Sava VEMIC

セルビア、ベオグラード生まれ。メトロポリタン歌劇場リンデマン・ヤングアーティスト・プログラムで学び、ジェームズ・レヴァインの指導を受ける。2015/2016シーズンにはメトロポリタン歌劇場とジュリアード音楽院の共同企画『夢遊病の女』ロドルフォ伯爵、オペラ・オーケストラ・ニューヨーク『パリジーナ』（ドニゼッティ）エルネスト、カーネギーホールでのモーツァルト『戴冠ミサ』バスソロ、テルアビブでの『後宮からの誘拐』オスミン、ベオグラード『魔笛』ザラストロ、続いて16/17シーズンにはメトロポリタン歌劇場に『ナブッコ』ベルの祭司長でデビューした他、ボストン・ユース・オーケストラ『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵、カーネギーホールでのハイドン『ネルソン・ミサ』バスソロなどを歌っている。またリンカーンセンター、ブルーノ・ワルター・オーデトリウムで定期的にリサイタルを開催している。ベルヴェデーレ国際声楽コンクールをはじめ、受賞歴も多い。新国立劇場初登場。

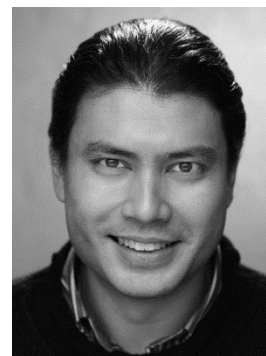


## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## タミーノ: スティーヴ・ダヴィスリム

Tamino: Steve DAVISLIM

オーストラリア出身。イエスタ・ヴィンベルイ、ニール・シコフ、ルイジ・アルヴァに学んだ後、チューリヒ歌劇場のオペラスタジオのメンバーとなる。チューリヒ歌劇場のアンサンブル・メンバーとなり、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『ルル』画家、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドなど多くの作品に出演。その後はベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、シュヴェツィンゲン音楽祭、ルードヴィヒスブルク音楽祭、シカゴ・リリック・オペラ、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ドレスデン、バルセロナ、マドリッドなど世界各地の一流歌劇場で活躍している。タミーノ役はミラノ・スカラ座でセントリッジのプロダクションに出演しているほか、ザクセン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場などでも歌っている。上記の諸役のほか、『イドメネオ』タイトルロール、『魔弾の射手』マックス、『放蕩者のなりゆき』トム・レイクウェルなど幅広いレパートリーを誇る。このほかコンサートでも多くの一流オーケストラに客演、CDも多く発売されている。新国立劇場初登場。



## 夜の女王: 安井陽子

Königin der Nacht: YASUI Yoko

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。二期会オペラスタジオ修了。文化庁在外研修員としてウィーン国立音楽大学に留学。クラーゲンフルト市立劇場のヘンツェ『若き貴族』イーダで欧州デビュー。以来『魔笛』夜の女王、オッフェンバック『青ひげ』ロザリンデで好演。国内では『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタなど出演。新国立劇場では『ジークフリート』森の小鳥、『鹿鳴館』頸子、『ばらの騎士』ゾフィー、『魔笛』夜の女王、『アラベッタ』フィアッカミッリ、『ファルスタッフ』ナンネッタ、バレエ『カルミナ・ブラーナ』ソプラノ・ソリストなどに出演。二期会会員。



## パミーナ: 林 正子

Pamina: HAYASHI Masako

東京藝術大学卒業。同大学院、二期会オペラスタジオ修了。ジュネーヴ音楽院ソリスト・ディプロマ取得。五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。スイス・ロマンダ管弦楽団『ドイツ・レクイエム』に出演するほかオーストリアでの音楽祭、テアトロ・サンカルロでのヴェルディ『レクイエム』などヨーロッパを拠点に活動。国内では新国立劇場・二期会共催『忠臣蔵』お艶、東京二期会・ベルギー王立モネ劇場提携『ニュルンベルクのマイスタージンガー』エーフア、東京二期会・ハンブルク州立歌劇場共同制作『皇帝ティートの慈悲』ヴィテッリアなどで出演し高い評価を得ている。近年では東京二期会『サロメ』『ダナエの愛』『ナクソス島のアリアドネ』の主演を演じるほか、2017年東京二期会『ばらの騎士』元帥夫人では表現力豊かな演唱で高い評価を得ている。コンサートでも読売日響定期演奏会『神々の黄昏 第3幕』グートルーネ、同定期演奏会『夢見るゲルゲ』ゲルトラウトなどソリストとしても活躍中。新国立劇場では『椿姫』フローラ、『忠臣蔵』お艶で出演している。フランス在住。二期会会員





## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

### パパゲーノ: アンドレ・シュエン

Papageno: André SCHUEN

イタリア、南チロル生まれ。チェロを学んだ後、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院で声楽を学ぶ。2010年にはザルツブルク音楽祭のヤング・アーティスト・プロジェクトに選ばれ、ザルツブルク音楽祭でサイモン・ラトル指揮『サロメ』、リッカルド・ムーティ指揮『マクベス』、アイヴォー・ボルトン指揮『夜鳴きうぐいす』に出演、2012年にはイースター音楽祭、夏の音楽祭ともに『カルメン』モラレスに出演、CD化されている。2010～2014年はグラーツ歌劇場のアンサンブルに所属、多くの役を演じた。またニコラウス・アーノンクール指揮のアン・デア・ウィーン劇場でのダ・ポンテ三部作では『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモを演じている。ここでの成功によりオーストリア音楽・劇場賞を聴衆の圧倒的な評価を受けて受賞した。アン・デア・ウィーン劇場では多く出演しているほか、ジュネーヴ、モンペリエ、ペルミなどの歌劇場に出演、ルネ・ヤーコプス、テオドル・クルレンツィスらと共演している。2016年には初CDでエコー・クラシック音楽賞のヤングアーティスト賞を受賞。新国立劇場初登場。



### パパゲーナ: 九嶋香奈枝

Papagena: KUSHIMA Kanae

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員としてミラノに留学。2005年にはギリシャ・アテネにて『魔笛』（ミハエル・ハンペ演出）に招聘され出演。第54回全日本学生音楽コンクール第1位、HIMESコンクール第1位。東京二期会『魔笛』パパゲーナ、『フィガロの結婚』スザンナ、『こうもり』アデーレ、びわ湖ホール『死の都』ユリエッタ、パシフィック・ミュージック・フェスティバル『ナクソス島のアリアドネ』ナヤードなどに出演している。新国立劇場では『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』バルバリーナおよびスザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『パルジファル』小姓1、『ジークフリート』森の小鳥、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』フラスキータ、『コジ・ファン・トゥッテ』（演奏会形式）デスピーーナなどに出演。18/19シーズンには『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナにも出演する。二期会会員。



### モノスタス: 升島唯博

Monostatos: MASUJIMA Tadahiro

エリザベト音楽大学卒。卒業後渡独。リューベック音楽大学で学ぶ。オランダ・オイレギオ国際声楽コンクール優勝など受賞多数。ドイツ各地で『道化師』『イル・トロヴァトーレ』『魔笛』などに出演。2012年あらかわバイロイト『ラインの黄金』ローゲ、ミーメで東京デビュー。13年日生劇場『フィデリオ』ヤッキーノ、14年小澤征爾音楽塾『フィガロの結婚』ドン・クルツィオ、15年東京二期会『魔笛』（宮本亜門演出）僧侶II、16年同『ナクソス島のアリアドネ』舞踏教師、17年同『ばらの騎士』ヴァルツァッキなどに出演。新国立劇場では17年『ばらの騎士』元帥夫人の執事で出演している。二期会会員。



# カルメン

Carmen

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕(フランス語上演/字幕付)

●会員先行販売期間: 2018年6/30(土)~7/12(木)

●一般発売日: 2018年7/15(日)

初演:1875年3月3日/パリ・オペラ=コミック座  
作曲:ジョルジュ・ビゼー  
原作:プロスペル・メリメ  
台本:アンリ・メイヤック/リュドヴィク・アレヴィ



## プロダクションについて

数あるオペラのレパートリーの中でも随一の人気を誇るカルメン。「ハバネラ」「セギディーリャ」など耳慣れたメロディにあふれ、隅々まで間然するところのない、傑作の名にふさわしい作品です。今回ヒロインを演じるのはジンジャー・コスタ=ジャクソン。情熱的な美貌の持主の彼女は、まさにカルメンを演じるために生まれてきたかのようです。対するドン・ホセにはモスクワ・ボリショイ劇場のスター、オレグ・ドルゴフ。ロシア独特の強靭さとリリカルな魅力を併せ持つホセに期待が高まります。エスカミーリョを歌うティモシー・レナーは、いままさに世界に羽ばたこうとしているアメリカの新鋭。そしていまや日本を代表するソプラノのひとり砂川涼子を彼女の当たり役ミカエラに迎えます。タクトを執るのはフランス音楽のスペシャリスト、ジャン=リュック・タンゴー。まさに最上のキャストがそろいました。これからのオペラ界を先取りしたようなエキサイティングな公演、ぜひ楽しみに劇場へおいでください。

## あらすじ

【第1幕】セビリアのタバコ工場前の広場には女工目当てに男たちが集まっている。彼らの一番人気はカルメン。ロマならではの奔放さで男を魅了するが、衛兵の伍長ドン・ホセは彼女に関心がない。そんなホセをからかってカルメンは花を投げつける。呆然とするホセのもとに、母の手紙を持って故郷ナバラから許婚のミカエラが来る。懐かしさに浸っていると、工場内で喧嘩が勃発。騒ぎの張本人カルメンは連行されるが、脱走しようとホセを誘惑。「リリヤス・パステアの酒場で待っている」との言葉に負けたホセは縄を解き、結果、脱走補助の罪で捕まってしまう。

【第2幕】リリヤス・パステアの酒場に人気闘牛士エスカミーリョが来てカルメンを口説くが、彼女は相手にしない。釈放されたホセをカルメンが踊りでもてなしていると、帰営の時刻に。カルメンを愛していても帰ろうとする真面目なホセだが、鉢合わせした上官スニガに刃向かってしまう。スニガはカルメンの密輸団仲間ダンカイロらに捕らえられ、ホセは密輸団に加わる決意をする。

【第3幕】人気のない岩山にいる密輸団。カルメンはすでにほかの男に心移りしているようで、ホセにつれない態度を取る。女たちはカルタ占いに興じるが、カルメンが占うと、自分もホセも死ぬという結果に、愕然とする。そんなとき、ホセの母が危篤だとミカエラが知らせにやってくる。ホセは、ミカエラとともに故郷に帰る。エスカミーリョの恋人になったカルメンは、試合を見に闘牛場へ。ホセも故郷から戻り、彼女を探していた。闘牛場の外で対峙する2人。やり直そうと迫るホセに、カルメンは、自由に生まれて自由に死ぬと言い放ち、ホセからもらった指輪を投げつける。思い余ったホセはカルメンを刺す。ホセは、倒れたカルメンの上に泣き崩れる。

ジョルジュ・ビゼー

# カルメン

Georges BIZET / Carmen

全3幕(フランス語上演/字幕付)

指揮 .....	ジャン=リュック・タンゴー
Conductor	Jean-Luc TINGAUD
演出 .....	鶴山 仁
Production	UYAMA Hitoshi
美術 .....	島 次郎
Set Design	SHIMA Jiro
衣裳 .....	緒方規矩子
Costume Design	OGATA Kikuko
照明 .....	沢田祐二
Lighting Design	SAWADA Yuji
振付 .....	石井 潤
Choreographer	ISHII Jun
カルメン .....	ジンジャー・コスタ=ジャクソン
Carmen	Ginger COSTA-JACKSON
ドン・ホセ .....	オレグ・ドルゴフ
Don José	Oleg DOLGOV
エスカミーリョ .....	ティモシー・レナー
Escamillo	Timothy RENNEN
ミカエラ .....	砂川涼子
Micaëla	SUNAKAWA Ryoko
スニガ .....	伊藤貴之
Zuniga	ITO Takayuki
モラレス .....	吉川健一
Moralès	YOSHIKAWA Kenichi
ダンカイロ .....	成田 真
Le Dancaire	NARITA Makoto
レメンダード .....	今尾 滋
Le Remendado	IMAO Shigeru
フラスキータ .....	日比野 幸
Frasquita	HIBINO Miyuki
メルセデス .....	中島郁子
Mercédès	NAKAJIMA Ikuko
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
ダンサー .....	新国立劇場バレエ団
Dancers	The National Ballet of Japan
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2018年	11月	23日(金・祝) 14:00	25日(日) 14:00
		27日(火) 14:00	30日(金) 14:00(貸切)
	12月	2日(日) 14:00	4日(火) 18:30
オペラパレス			

【チケット料金】 S:23,760円 ・ A:19,440円 ・ B:12,960円 ・ C:7,560円 ・ D:4,320円

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

### 指揮:ジャン＝リュック・タンゴ

Conductor: Jean-Luc TINGAUD

フランス生まれ。パリ国立音楽院にて学んだ後、マニユエル・ロザンタルのアシスタントとしてフランス音楽の造詣を深める。1997年に若い音楽家からなる室内管弦楽団Ostinatoを創設し、オペラ・コミック、シャンゼリゼ劇場ほかフランス各地の劇場や音楽祭に招かれている。オペラでも精力的に活動し、02-07年にはオペラ・コミックの指揮補を務めた。フランス・オペラを特に得意とし、フォーレ『ペネロペ』、マスネ『サッフオー』、オーペール『マノン・レスコー』、シャブリエ『いやいやながらの王様』、オフエンバック『チュリパタン島』など、珍しい作品のほか、『ペレアスとメリザンド』『ファウストの劫罰』『人間の声』『ウェルテル』『カルメル会修道女の対話』といったフランス・オペラ、さらには『愛の妙薬』『コジ・ファン・トゥッテ』『蝶々夫人』をレパートリーとしている。ウェックスフォード・オペラ・フェスティバルに定期的に出演しているほか、フランス各地の歌劇場で活躍、近年はヴェローナ野外音楽祭、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、マドリード王立劇場など、国際的に活躍の場を広げている。CD録音も数多い。新国立劇場初登場。



### 演出:鶴山 仁

Production: UYAMA Hitoshi

慶応義塾大学フランス文学科卒業。舞台芸術学院を経て文学座附属研究所に入所、劇団員に。初演出は1982年文学座アトリエ公演『プラハ1975』。以降、精力的な演出活動を続けている。83年から1年半、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在。2007年9月より10年8月まで新国立劇場演劇芸術監督。89年、芸術選奨文部大臣新人賞、1999年『おばかさんの夕食会』『夢の島イニシュマーン』の演出で、第2回毎日芸術賞千田是也賞、2001年新国立劇場『コペンハーゲン』で紀伊國屋演劇賞個人賞と読売演劇大賞優秀演出家賞、03年『ニュルンベルグ裁判』（ひょうご舞台芸術）などにより読売演劇大賞の大賞・最優秀演出家賞、07年『ゆるる車の音』（文学座）などにより読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞、09年『ヘンリー六世』で芸術選奨文部科学大臣賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞などを受賞。そのほかの主な演出作品に、『グリークス』（第25回紀伊國屋演劇賞団体賞）、『缶詰』（第55回文化庁芸術祭最優秀賞）、『ザ・ウィアー（堰）』（以上文学座）、『雪やこんこん』『父と暮せば』（以上こまつ座）など、またオペラでも数々の話題作を手がけている。新国立劇場では、上記受賞作品『コペンハーゲン』『ヘンリー六世』のほか、『リア王』『新・雨月物語』『新・地獄変』『花咲く港』『カエル』『アルゴス坂の白い家』『オットーと呼ばれる日本人』『舞台は夢』『現代能楽集 鶴』『イロアセル』『リチャード三世』『桜の園』『ヘンリー四世』、オペラ『カルメン』『鹿鳴館』を演出している。



### カルメン:ジンジャー・コスタ＝ジャクソン

Carmen: Ginger COSTA-JACKSON

イタリア生まれ。メトロポリタン歌劇場リンデマン・ヤングアーティスト・プログラムを修了し、同歌劇場で『セビリアの理髪師』ロジーナを演じたほか、『マノン』ロゼット、『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラ、『ルル』ギムナジウムの学生などで出演している。ヨーロッパではバルセロナ・リセウ大劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』ローラでデビュー、さらにパリ・オペラ座にはフィリップ・ジョルダン指揮『コジ・ファン・トゥッテ』の新制作のデスピーナ役でデビューし、今後も出演が続く予定である。このほかロサンゼルス・オペラ『リゴレット』マッドレーナ、シアトル・オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラなどが予定されている。『カルメン』のタイトルロールは特に得意とし、サンフランシスコ・オペラでのデビューを飾ったほか、グリマースグラス・フェスティバル、メキシコシティ、ミシガン・オペラ、ナッシュヴィル・オペラ、バンクーバー・オペラなど多くの劇場で演じている。新国立劇場初登場。

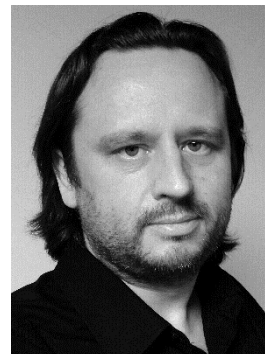


## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

**ドン・ホセ:オレグ・ドルゴフ**

Don José : Oleg DOLGOV

ロシア生まれ。チャイコフスキー記念モスクワ音楽院とモスクワ・ガリーナ・ヴィシネフスカヤ・オペラセンターにて学ぶ。ノーヴァヤ・オペラ劇場のソリストとして活躍した後、2014/15シーズンよりモスクワ・ボリショイ劇場のアンサンブル・メンバーとなり、『スペードの女王』ゲルマン、『ドン・カルロ』タイトルロール、『椿姫』アルフレード、『カルメン』ドン・ホセ、『イオランタ』ヴォーデモン、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』セルゲイなどを演じている。このほか、スポレート・フェスティバル、ミラノ・スカラ座、リエージュ・ワロニー王立歌劇場など、ヨーロッパ各地の劇場・音楽祭に登場している。また最近の出演および将来の予定にはバイエルン放送響でのマリス・ヤンソンス指揮ラフマニノフ『鐘』、アムステルダム・コンサートヘボウでのウラディーミル・ユロウスキ指揮『セシオン・コトコ』（プロコフィエフ）タイトルロール、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル及びブラハ国立歌劇場での『イオランタ』ヴォーデモンなどがある。新国立劇場初登場。

**エスカミーリョ:ティモシー・レナー**

Escamillo : Timothy RENNEN

アメリカ生まれ。ボブ・ジョーンズ大学で音楽教育と教会音楽を学んだ後、イリノイ大学で声楽の博士を取得、現在フィラデルフィア・アカデミー・オブ・ヴォーカル・アーツでレジデント・アーティストとして学んでいる。ストットラー・ハワード・フェローシップ、マリオ・ランツァ研究所奨学金、ジョーセフ・W・シュランガー記念オペラ奨学金授与のほか、オルフェウス全国声楽コンクール、S・リヴィングストン・マザー奨学金コンクールなど受賞歴も多い。オペラ・コロンバス『椿姫』ジェルモン、ヴェロ・ビーチ・オペラ『こうもり』アイゼンシュタイン、フィラデルフィア・アカデミー・オブ・ヴォーカル・アーツでのアントン・ルービンシュタイン『悪魔』タイトルロール、ニューヨーク・リーダー克蘭ツ『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵など活躍を始めている。またカーネギーホール、イースタン交響楽団などコンサートにも出演し、ラヴィニア・フェスティバルではリートのコンサートにも出演している。新国立劇場初登場。

**ミカエラ:砂川涼子**

Micaëla : SUNAKAWA Ryoko

武蔵野音楽大学首席卒業。同大学大学院修了。第69回日本音楽コンクール第1位ならびに海外派遣特別賞受賞。第16回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞など受賞多数。2001～2004年江副育英会オペラ奨学生として渡伊。五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、05年より再度留学。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで本格的なオペラ・デビュー。以後藤原歌劇団『イル・カンピエロ』ガスパリーナ、『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、びわ湖ホール『死の都』マリエッタ、『椿姫』ヴィオレッタ、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』アントニアなどに出演を重ね、日本を代表するソプラノの一人として活躍中。新国立劇場では『トゥーランドット』リユー、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『魔笛』パミーナ、『夜叉ヶ池』百合、『ウェルテル』ソフィーなどに出演。2017/18シーズンは『ホフマン物語』アントニア、2018/19シーズンはほかに『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『トゥーランドット』リユーに出演予定。武蔵野音楽大学非常勤講師。藤原歌劇団団員。



# ファルスタッフ

Falstaff

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕(イタリア語上演/字幕付)

●会員先行販売期間: 2018年7/28(土)~8/21(火)

●一般発売日: 2018年8/25(土)

初演: 1893年2月9日/ミラノ・スカラ座

作曲: ジュゼッペ・ヴェルディ

原作: ウィリアム・シェイクスピア

台本: アッリーゴ・ボーイト



## プロダクションについて

イタリアオペラを代表する作曲家ヴェルディ。19世紀を通じて数々の歴史劇、悲劇を題材にした彼が、最後に挑んだ唯一の喜劇が『ファルスタッフ』です。生涯にわたって取り組んだシェイクスピアの戯曲のひとつ、『ウィンザーの陽気な女房たち』に題材をとった本作は、晩年のヴェルディが到達した精妙さにあふれています。新国立劇場の『ファルスタッフ』はBBCのシェイクスピア作品で知られる名匠ジョナサン・ミラーによるもの。典雅な中にも深い人間洞察が感じられる名舞台です。指揮にはイタリアオペラにおいては現代を代表するマエストロの一人、カルロ・リッツィを迎えます。さらに題名役には新国立劇場でも様々なブッフォ役で出演したロベルト・デ・カンディアが登場します。そのほかアリーチェにエヴァ・メイ、フォードにマッティア・オリヴィエーリとイタリア勢が揃ったのも大きな魅力。イタリア人だからこその絶妙な笑いのタイミングで、コメディを存分に堪能していただけます。

## あらすじ

【第1幕】太鼓腹が自慢の好色な老騎士ファルスタッフは、ページ夫人メグとフォード夫人アリーチェが自分に気があると勘違いし、彼女たちへ恋文を書く。手紙を受け取ったメグとアリーチェは、身の程知らずな内容の上、全く同じ文面であることに呆れ顔。クイックリー夫人ら女性陣で懲らしめようと画策する。一方フォードも、妻アリーチェ宛にファルスタッフが恋文を書いたと従者からの情報を受け、ファルスタッフをやりこめようと意気込む。

【第2幕】クイックリー夫人が、アリーチェとの逢引きの時間をファルスタッフに伝えて、計画がスタート。フォードは偽名を使い、アリーチェを誘惑してほしい、とファルスタッフに頼む。引き受けたファルスタッフは、アリーチェと会う予定だからお安いご用だと語り、フォードは驚愕する。迎えた逢引きのとき、ファルスタッフがアリーチェを口説いていると、筋書き通りメグが来て、彼は慌てて逃げる。そのとき、妻の浮気相手を捕らえようとフォードらが乗り込んでくる。彼がつい立ての向こうを確認すると、そこには彼の娘ナンネッタとフェントンが。2人の結婚を認めないフォードは叱る。洗濯籠の中に身を潜めていたファルスタッフは、籠ごと川に突き落とされる。

【第3幕】散々な目に遭っても懲りないファルスタッフは、再びアリーチェと会う約束をする。今回の場所は真夜中のウィンザー公園。精霊がさまようと言われる場所だ。約束の時間にファルスタッフとアリーチェが会うと、助けを求めるメグの声が響く。精霊があらわれたと怖がるファルスタッフは目をつぶって横たわる。実はフォードらが妖精を演じているのだが、すっかり怯えたファルスタッフは、これまでのことを謝る。また、女性陣の計らいで、フォードもナンネッタとフェントンの結婚を認める。ファルスタッフは、この世はすべて冗談、と語って大団円。

ジュゼッペ・ヴェルディ

# ファルスタッフ

Giuseppe VERDI / Falstaff

全3幕(イタリア語上演/字幕付)

指揮 .....	カルロ・リッツィ
Conductor	Carlo RIZZI
演出 .....	ジョナサン・ミラー
Production	Jonathan MILLER
美術・衣裳 .....	イザベラ・バイウォーター
Set and Costume Design	Isabella BYWATER
照明 .....	ペーター・ペツチニック
Lighting Design	Peter PETSCHNIG
ファルスタッフ .....	ロベルト・デ・カンディア
Sir John Falstaff	Roberto DE CANDIA
フォード .....	マッティア・オリヴィエーリ
Ford	Mattia OLIVIERI
フェントン .....	村上公太
Fenton	MURAKAMI Kota
医師カイウス .....	小山陽二郎
Dr. Cajus	OYAMA Yojiro
バルドルフォ .....	糸賀修平
Bardolfo	ITOGA Shuhei
ピストーラ .....	妻屋秀和
Pistola	TSUMAYA Hidekazu
フォード夫人アリーチェ .....	エヴァ・メイ
Mrs. Alice Ford	Eva MEI
ナンネッタ .....	幸田浩子
Nannetta	KOUDA Hiroko
クイックリー夫人 .....	エンケレイダ・シュコーザ
Mrs. Quickly	Enkelejda SHKOZA
ページ夫人メグ .....	鳥木弥生
Mrs. Meg Page	TORIKI Yayoi
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2018年 12月 6日(木)19:00 9日(日)14:00  
12日(水)14:00 15日(土)14:00

オペラパレス

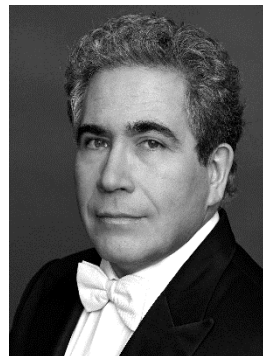
【チケット料金】 S:23,760円 ・ A:19,440円 ・ B:12,960円 ・ C:7,560円 ・ D:4,320円

**主要キャスト・スタッフ プロフィール**

**指揮:カルロ・リッツィ**

Conductor : Carlo RIZZI

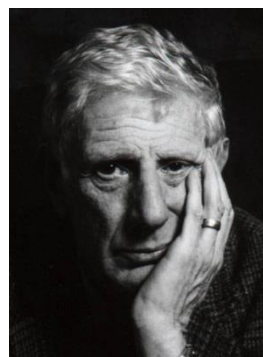
イタリア生まれ。ミラノ音楽院に学び、その後ミラノ・スカラ座の音楽スタッフとして経験を積む。1982年に指揮者としてのキャリアをスタートし、オペラとコンサートの両方で世界中の一流劇場やフェスティバルで活躍している。オペラのレパートリーは広く多くのイタリアオペラを中心に100以上に及び、ワーグナー、リヒャルト・シュトラウス、マルティヌー、ヤナーチェクといった作曲家の作品も手掛けている。オペラでは1992～2001年及び2004～2008年の2期にわたりウェルシュ・ナショナル・オペラの音楽監督を務めたほか、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラに頻繁に客演している。コンサート指揮者としても、ブリュッセル・モネ劇場管弦楽団とのチャイコフスキー交響曲全曲演奏をはじめ、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー、ローマ・サンタ・チェチーリア管弦楽団、ハレ管弦楽団など、多くのオーケストラと共演している。最近ではメトロポリタン歌劇場『ノルマ』新制作、パリ・オペラ座『聖スザンナ/カヴァレリア・ルスティカーナ』新制作などがある。またザルツブルク音楽祭でのネトレプコ主演『椿姫』DVDをはじめ、数多く録音・録画が発売されている。新国立劇場初登場。



**演出:ジョナサン・ミラー**

Production : Jonathan MILLER

ロンドン生まれ。医学博士、作家、テレビプロデューサー、演劇・オペラの演出など幅広い分野で国際的に活躍。演劇演出家として、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーの『ヴェニスの商人』『じゃじゃ馬馴らし』や、1988年から90年まで芸術監督を務めたオールド・ヴィック劇場での『リア王』、80年からBBCが制作したシェイクスピアシリーズなど、シェイクスピア作品の演出で高い評価を得る。オペラ演出は74年のアレクサンダー・ゲアーの『Arden Must Die』イギリス初演に始まり、その後もイングリッシュ・ナショナル・オペラなどで活躍、『ミカド』『リゴレット』『ねじの回転』『ばらの騎士』『カルメン』などで大成功を収める。また、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭など世界各地で活躍している。新国立劇場では『ファルスタッフ』『ばらの騎士』を演出。



**ファルスタッフ:ロベルト・デ・カンディア**

Falstaff : Roberto DE CANDIA

イタリア生まれ。ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ・コミック、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、ローマ歌劇場、ブリュッセル・モネ劇場などの一流歌劇場、またグラインドボーン音楽祭、ザルツブルク音楽祭など多くの音楽祭に登場している。ロッシェニを得意とし、多くの役でロッシェニ・オペラ・フェスティバルに出演しているほか、『セビリアの理髪師』フィガロをはじめとして、世界中で活躍している。近年はレパートリーを広げ、『ファルスタッフ』タイトルロール、『ジャンニ・スキッキ』タイトルロール、『椿姫』ジェルモン、『仮面舞踏会』レナート、『愛の妙薬』ドゥルカマーラなど幅広い役柄を演じている。新国立劇場には1999年『マノン・レスコー』レスコー、2002年『セビリアの理髪師』フィガロ、2009年『チェネレントラ』ダンディーニに続き4回目の登場。





主要キャスト・スタッフ プロフィール

**フォード: マッティア・オリヴィエーリ**

Ford : Mattia OLIVIERI

イタリア生まれ。ボローニャ・G.B.マルティニ音楽院で学んだ後、マウリツィオ・レオーニに師事、2009年にはボローニャ歌劇場のオペラスタジオに入る。2008年にボローニャ歌劇場でデビュー後、ロッシニ・オペラ・フェスティバルアカデミーを皮切りに、ミラノ・スカラ座、ヴェローナ野外音楽祭、トリエステ・ヴェルディ劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ブレゲンツ音楽祭、ヴァレンシア歌劇場、マルティーナ・フランカ音楽祭、サンパウロ歌劇場などに次々と登場している。レパートリーには『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、シヨナル、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『愛の妙薬』ベルコレ、『カルメン』エスカミーリョ、『セビリアの理髪師』フィガロがある。今シーズンはミラノ・スカラ座、バルセロナ・リセウ大劇場、ネザーランド・オペラなどに出演。フォード役は今回がロールデビューとなる。新国立劇場初登場。



**フェントン: 村上公太**

Fenton : MURAKAMI Kota

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。新国立劇場オペラ研修所第6期修了。文化庁在外派遣研修員としてイタリア・ボローニャへ留学。ジュゼッペ・ディ・ステファノ国際コンクールにおいて『リゴレット』マントヴァ公爵役を獲得。シンガポール・リリック・オペラにて『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『魔笛』タミーノ、『サロメ』ナラボート、『椿姫』アルフレードに出演し、好評を博す。東京二期会では『マクベス』マルコム、『チャールダーシュの女王』ボニ、『ダナエの愛』ボルクス、『トリスタンとイゾルデ』メロートで活躍。16年日生劇場『後宮からの逃走』ベドリッロも好演した。新国立劇場では平成24年度高校生のためのオペラ鑑賞教室『ラ・ボエーム』バルピニョール、『パルジファル』第1の聖杯騎士、『こうもり』アルフレード、『ばらの騎士』ファーニナル家の執事、『ウェルテル』シュミット、『カルメン』レメンダードに出演している。二期会会員。



**フォード夫人アリーチェ: エヴァ・メイ**

Mrs. Alice Ford : Eva MEI

イタリア生まれ。フィレンツェ・ケルビーニ音楽院に学ぶ。1990年にウィーン・モーツァルト国際コンクールで『後宮からの逃走』コンスタンツェ役の解釈でカテリーナ=カヴェリエーリ賞を受賞、続いてウィーン国立歌劇場に同役でデビューし国際的なキャリアをスタートさせた。ベルカント・オペラを得意とし、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『タンクレディ』アメナイデ、『アンナ・ボレーナ』タイトルロールなどを演じているほか、『フィガロの結婚』伯爵夫人、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『皇帝ティートの慈悲』ヴィットーリアなどモーツァルト作品も常に歌い続けている。ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ザルツブルク音楽祭など世界一流の歌劇場、音楽祭に登場しており、中でもチューリヒ歌劇場にたびたび客演している。ニコラウス・アーノンクール、クラウディオ・アバド、ゾービン・メータ、リッカルド・ムーティ、コリン・デイヴィス、ダニエル・バレンボイム、ロリン・マゼールと、共演した一流指揮者には枚挙のいとまがない。最近ではフォード夫人アリーチェを得意とし、ルツェルン音楽祭、ミラノ・スカラ座、ナポリ・サンカルロ歌劇場などで歌っている。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

**クイックリー夫人:エンケレイダ・シュコーザ**

Mrs. Quickly : Enkelejda SHKOZA

アルバニア、ティラナ生まれ。生地の音楽院で学んだ後、ミラノ・ヴェルディ音楽院で学び、同年イスタンブール・レイラ・ゲンチェルコンクールで優勝した。その後、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、シャトレ座、ミラノ・スカラ座、ドレスデン・ザクセン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、ブリュッセル・モネ劇場などの一流歌劇場に定期的に出演し、コリン・デイヴィス、リッカルド・シャイー、チョン・ミョンフン、ジェームズ・コンロン、ダニエル・オーレン、アントニオ・パッパーノ、ファビオ・ルイージ、ダニエレ・ガッティ、エヴェリーノ・ピド、ドナート・レンツェッティ、カルロ・リッツィらと共演している。近年のレパートリーには『ギョーム・テル』ヘドヴィグ、『アルジェのイタリア女』イザベッラ、『蝶々夫人』スズキ、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナ、『アイーダ』アムネリス、『運命の力』プレツィオジッラなどがある。新国立劇場初登場。



**ナンネッタ:幸田浩子**

Nannetta : KOUDA Hiroko

東京藝術大学首席卒業。同大学院、文化庁オペラ研修所終了後、ボローニャとウィーンで研鑽を積む。数々の国際コンクールに上位入賞後、欧州の主要歌劇場へ次々とデビュー。ベッリーニ大劇場『清教徒』エルヴィーラ、ローマ歌劇場『ホフマン物語』オランピア、シュトゥットガルト歌劇場『皇帝ティートの慈悲』セルヴィーリア等で活躍。2000年にはウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。同劇場『ファルスタッフ』ナンネッタ、『魔笛』夜の女王等に出演。日本では、二期会『ばらの騎士』ゾフィー等に出演の他、主要オーケストラとの共演や全国各地でのリサイタル、またNHK「気ままにクラシック」のパーソナリティやBSフジ「レシピ・アン」のMC等多彩な活動を展開。第14回五島記念文化賞オペラ新人賞、第38回エクソンモービル音楽賞奨励賞受賞。新国立劇場には『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『ホフマン物語』オランピア、『チェネレントラ』クロリンダ、『鹿鳴館』頸子、『夜叉ヶ池』百合などに出演している。2018/2019シーズンは『ウェルテル』ソフィーにも出演を予定している。二期会会員。



# タンホイザー

Tannhäuser

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(ドイツ語上演/字幕付)

●会員先行販売期間: 2018年9/8(土)~9/19(水)

●一般発売日: 2018年9/23(日・祝)

初演:1845年10月19日/ドレスデン宮廷劇場(現:ザクセン州立歌劇場)

作曲・台本:リヒャルト・ワーグナー



## プロダクションについて

一人の芸術家の苦闘と救済を描く『タンホイザー』。雄弁な序曲に、愛欲の世界を表す官能的なバレエ、敬虔な調べを奏でる巡礼の合唱、はたまた高らかに歌い上げる歌合戦の場など、オペラのような楽しみが詰まった魅力作でもあります。難役タンホイザーに迎えるのはバイロイト音楽祭でも同役を歌ったトルステン・ケール。テノールらしい輝かしさとヘルデンテノールの力強さを兼ね備えた稀有な存在が、どんなタンホイザーを演じるか。やはりバイロイト音楽祭でのヴォルフラムとしてワーグナー歌手のキャリアをスタートしたローマン・トレーケルの美声と精緻さが味わえる「夕星の歌」も楽しみです。エリーザベトにはこれからを担うワーグナーソプラノとして今まさに飛び立とうとしているリエネ・キンチャ、指揮にはメトロポリタン歌劇場をはじめ世界の一流歌劇場で活躍するアッシャー・フィッシュが久々に登場します。

## あらすじ

【第1幕】中世のドイツ。騎士タンホイザーは、禁断の地ヴェーヌスベルクで愛欲の女神ヴェーヌスの虜となっていた。やがてこの歓楽の日々にも飽き、引き止めようとする女神の誘惑を振り切って、人間世界に戻る。そこで狩りに向かうかつての仲間に出会い、ヴァルトブルク城へ共に帰って行く。

【第2幕】ヴァルトブルク城、歌の殿堂の大広間でタンホイザーはエリーザベトとの再会を喜び、歌合戦に参加することとなる。領主ヘルマンからの歌合戦の課題は「愛の本質」を明らかにすること。かつての同僚ヴォルフラムは愛を清らかな“奇跡の泉”にたとえ、他の騎士たちも精神的な愛を讃える歌を歌う。タンホイザーはこれに反論し、愛の本質は官能の愛であると〈ヴェーヌス賛歌〉を歌い上げたため、ヴェーヌスベルクにいたことが人々に露見してしまう。騎士たちはタンホイザーを殺そうとするが、エリーザベトのとりなしによって、ローマ法王のもとへ贖罪の巡礼に出るよう領主ヘルマンはタンホイザーに命じるのだった。

【第3幕】エリーザベトはタンホイザーの救済を祈っているが、ローマからの巡礼の中に彼の姿はない。一人現れたタンホイザーは、ローマで彼だけ許しを与えられなかった様子を語る。自暴自棄になった彼はヴェーヌスベルクへの誘惑に今一度身を任せようとするが、エリーザベトの死によってタンホイザーは救済される。「エリーザベトよ、わがために祈れ」と叫んで息絶えるタンホイザーの上に神の恩寵をたたえる合唱が響く。

リヒャルト・ワーグナー

# タンホイザー

Richard WAGNER / Tannhäuser

全3幕(ドイツ語上演/字幕付)

指揮 ..... Conductor	アッシャー・フィッシュ Asher FISCH
演出 ..... Production	ハンス＝ペーター・レーマン Hans-Peter LEHMANN
美術・衣裳 ..... Set and Costume Design	オラフ・ツオンベック Olaf ZOMBECK
照明 ..... Lighting Design	立田雄士 TATSUTA Yuji
振付 ..... Choreographer	メメット・バルカン Mehmet BALKAN
領主ヘルマン ..... Hermann	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
タンホイザー ..... Tannhäuser	トルステン・ケール Torsten KERL
ヴォルフラム ..... Wolfram von Eschenbach	ローマン・トレケル Roman TREKEL
ヴァルター ..... Walther von der Vogelweide	鈴木 准 SUZUKI Jun
ビーテロルフ ..... Biterolf	萩原 潤 HAGIWARA Jun
ハインリヒ ..... Heinrich der Schreiber	与儀 巧 YOGI Takumi
ラインマル ..... Reinmar von Zweter	大塚博章 OTSUKA Hiroaki
エリーザベト ..... Elisabeth	リエネ・キンチャ Liene KINČA
ヴェーヌス ..... Venus	アレクサンドラ・ペーターザマー Alexandra PETERSAMER
牧童 ..... Ein junger Hirt	吉原圭子 YOSHIHARA Keiko
合唱 ..... Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
バレエ ..... Ballet	新国立劇場バレエ団 The National Ballet of Japan
管弦楽 ..... Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2019年	1月	27日(日)14:00	30日(水)14:00
	2月	2日(土)14:00	6日(水)17:30
		9日(土)14:00	
<b>オペラパレス</b>			

【チケット料金】 S:27,000円 ・ A:21,600円 ・ B:15,120円 ・ C:8,640円 ・ D:5,400円

主要キャスト・スタッフ プロフィール

**指揮:アッシャー・フィツシュ**

Conductor: Asher FISCH

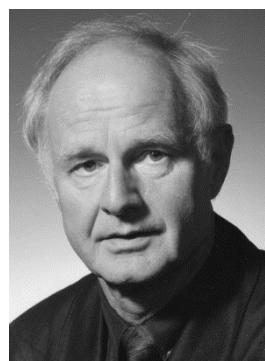
イスラエル生まれ。ダニエル・パレンボイムのアシスタントとしてキャリアをスタートし、ベルリン州立歌劇場でカペルマイスターを務めた。オペラ、コンサートの両方で活躍し、ロマン派、および後期ロマン派の作品、特にワーグナー、ブラームス、リヒャルト・シュトラウス、ヴェルディを得意とするが、グルックから現代作品まで幅広いレパートリーを誇る。ウィーン・フォルクスオーパー（1995～2000）、ニュー・イスラエル・オペラ音楽監督（98～08年）、シアトル・オペラ首席客演指揮者（07～13年）などを歴任、14年より西オーストラリア交響楽団の首席指揮者およびアーティスティック・アドヴァイザーを務めている。このほか、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、ライブツィヒ歌劇場などにたびたび客演、特にバイエルン州立歌劇場とのむすび付きが強く、15/16シーズンには5演目を指揮した。コンサートでもベルリン・フィル、ミュンヘン・フィル、ロンドン響、フランス国立管、ボストン響、シカゴ響、クラーヴランド管などと共演している。新国立劇場では2000年『ドン・ジョヴァンニ』以来の登場となる。



**演出:ハンス＝ペーター・レーマン**

Production: Hans-Peter LEHMANN

ドイツ・カッセル生まれ。デトモルトで音楽を、ベルリンで美術史と演劇学を学ぶ。1958年ベルリン州立歌劇場で K.エーベルトの助手を、60年から73年までパイロイト音楽祭でヴィーラント・ワーグナー及びヴォルフガング・ワーグナーの助手を務める。80年より2001年まで、ハノーファー州立歌劇場総監督を務め『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『トスカ』『アイダ』『ヴォツェック』など数多くの作品を手がける。01年よりフリーの演出家として活躍し、世界各地のオペラハウスやフェスティバルで作品を発表している。今までに『ラインの黄金』『ワルキューレ』『トリスタンとイゾルデ』『リゴレット』『魔笛』『仮面舞踏会』などを演出した。新国立劇場では02年『サクソス島のアリアドネ』、04年『エレクトラ』に続いて、07年『タンホイザー』が3作目となった。



**領主ヘルマン:妻屋秀和**

Hermann: TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スパラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッサ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『ファルスタッフ』ピストーラ、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。2017/18シーズンは『アイダ』ランフィス、『フィデリオ』ロッコに、2018/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トゥーランドット』ティムールにも出演予定。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

**タンホイザー:トルステン・ケール**

Tannhäuser: Torsten KERL

ドイツ生まれ。首席オーボエ奏者としてオーケストラで活躍後、歌手に転向し瞬く間に成功を収めた。現代最高のヘルデンテノールの一人として、世界中で活躍している。主なレパートリーには『魔弾の射手』マックス、『死の都』パウル、『低地』ペドロ、『影のない女』皇帝、『カルメン』ドン・ホセ、『サムソンとデリラ』サムソン、『オテロ』タイトルロール、『ボリス・ゴドゥノフ』グリゴリー、『スベードの女王』ゲルマン、『西部の娘』ディック・ジョンソンなどがある。ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、ネザーランド・オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、パリ・オペラ座などの劇場に出演。『タンホイザー』タイトルロールはパイロイト音楽祭でも歌っている。このほかウィーン・フィル、ロンドン・フィル、ロンドン響、ベルリン・フィル、アムステルダム・コンセルトヘボウ管、フランス国立管、ドレスデン・シュターツカペレなどに定期的に客演している。新国立劇場では2010年『カルメン』ドン・ホセ、14年『死の都』パウルに出演。



**ヴォルフラム:ローマン・トレケル**

Wolfram : Roman TREKEL

ドイツ生まれ。ベルリンで学んだ後、ベルリン州立歌劇場でキャリアをスタート、以来同劇場の中心的な歌手であり続けている。レパートリーには『タンホイザー』ヴォルフラム、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』バックメッサー、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『パルジファル』アムフォルタス、『ファウスト博士』『ヴォツェック』タイトルロールなどがある。ベルリン州立歌劇場以外では、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ネザーランド・オペラ、チューリヒ歌劇場、ウィーン国立歌劇場などに出演。コンサート、リートの分野でも活躍し、ベルリン・フィル、シカゴ響、クリーヴランド管、イスラエル・フィルなどに客演し、クラウディオ・アバド、ダニエル・バレンボイム、ファビオ・ルイーゼ、ズービン・メータ、ケント・ナガノ、サイモン・ラトル、クリスティアン・ティーレマンなどと共演している。CD、DVDも数多い。新国立劇場では2004年『神々の黄昏』グンター、11年『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソに続いて3回目の登場。



**ヴァルター:鈴木 准**

Walther von der Voegelweide : SUZUKI Jun

東京藝術大学大学院にて音楽博士号取得。松田トシ賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。2010年度に同大学の特別研究員として渡英。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、『後宮からの逃走』ベルモンテ、一柳慧『愛の白夜』ヨニスなどに出演したほか、ブリテン『カーリユー・リヴァー』狂女役をロンドン、オーフォードで演じ、好評を得た。14年3月にはびわ湖ホール『死の都』にパウル役で出演、絶賛される。新国立劇場では『魔笛』タミーノ、『夕鶴』与ひょう、『沈黙』モキチ、『タンホイザー』ハインリヒ、『鹿鳴館』久雄、『パルジファル』小姓に出演。17/18シーズンには『フィデリオ』ジャキーノで出演予定である。二期会会員。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

**ピーテロルフ:萩原 潤**

Biterolf : HAGIWARA Jun

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ41期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員として渡独。ベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学大学院を最優秀の成績で修了。第14回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。これまでに『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサー、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『こうもり』アイゼンシュタインなどに出演。新国立劇場では『トゥーランドット』ピン、『アラベッタ』ドミニク伯爵、『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ラ・ボエーム』ショナール、『ローエングリン』王の伝令、『魔笛』パパゲーノ、『ヴォツェック』第二の徒弟職人、『イエヌーフア』粉屋の親方、オペラ鑑賞教室・関西公演『フィガロの結婚』フィガロなどに出演。17/18シーズンには『松風』須磨の浦人出演予定。二期会会員。



**エリーザベト:リエネ・キンチャ**

Elisabeth : Liene KINČA

ラトヴィア生まれ。ラトヴィア音楽院で学ぶ。2005年ラトヴィア国立歌劇場に『イエヌーフア』カロールカでデビュー。その後『仮面舞踏会』アメリア、『ルサルカ』外国の公女、『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『外套』ジョルジュッタ、『アイダ』『トスカ』タイトルロール、『スペードの女王』リーザ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『神々の黄昏』グートルーネ、第三のノルンなどに出演、モスクワおよび香港へのツアーにも参加した。12年より欧州各地に活躍の場を広げ、フランダース・オペラ『エレクトラ』クリソテミス、『タンホイザー』エリーザベト、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、スロヴァキア国立歌劇場『アイダ』タイトルロール、フライブルク歌劇場『スペードの女王』リーザ、『シチリアの晩鐘』エレナ、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、オーバーアーマガウ受難劇場『さまよえるオランダ人』ゼンタなどに出演している。『タンホイザー』エリーザベトはフランダース・オペラのほか、フェニーチェ歌劇場、ベルン歌劇場でも大成功を収めた役である。新国立劇場初登場。



**ヴェーヌス:アレクサンドラ・ペーターザマー**

Venus : Alexandra PETERSAMER

ドイツ生まれ。ミュンヘン国立音楽大学にて学ぶ。ベルリンVDMK全国合唱コンクールおよび国際プフィッツナーコンクールで第1位を獲得のほかベルヴェデーレ国際声楽コンクールで特別賞を受賞した。1994～2000年にはデッサウ・ザクセンアンハルト劇場、04～08年にはミュンヘン・ゲルトナープラッツ劇場のアンサンブルに所属。06年にはパイロイト音楽祭に『ワルキューレ』ロスヴァイセでデビュー。翌07年には新日本フィル『ローエングリン』でオルトルート役デビューし、同役は08年にはライブツィヒ歌劇場、11年にはバイエルン州立歌劇場でも歌っている。『タンホイザー』ヴェーヌスも得意とし、ニュルンベルク歌劇場、ドレスデン州立歌劇場などで成功を収めている。コンサートでも活躍し、ウィーン楽友協会、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ノイシュヴァンシュタイン城フェスティバル・コンサート、ザルツブルク音楽祭などに出演。共演した指揮者にはアラン・ギルバート、ベルトラン・ド・ビリー、ジェームズ・コンロン、ヴァレリー・ゲルギエフ、クリスティアン・ティーレマン、コリン・デイヴィス、ケント・ナガノ、ペーター・シュナイダーらがいる。新国立劇場初登場。



2019年2/17~24  
＜新制作 創作委嘱作品・世界初演＞  
New Production  
Commissioned Work,  
World Premiere

# 紫苑物語

Asters

オペラパレス | 4回公演 | 全2幕(日本語上演/字幕付)

●会員先行販売期間: 2018年9/29(土)~10/16(火)

●一般発売日: 2018年10/20(土)

作曲:西村 朗  
原作:石川 淳  
台本:佐々木幹郎

## プロダクションについて

日本のオペラハウスとして日本オペラを。新国立劇場が開場以来一つの柱としてきた方針ですが、大野和士が芸術監督としてはじめてタクトを執るのも、新国立劇場6年ぶりとなる創作委嘱作品です。石川淳が芸術家の業と葛藤を描いた小説『紫苑物語』では、平安時代を舞台に異界へと広がる幻想的な世界が展開します。絢爛な文体が魅力のこの作品を音楽化するのに、大野次期監督が白羽の矢を立てたのが西村朗。まさに現代日本を代表する作曲家である西村が、これまで多くの作品を共に取り組んできた台本の佐々木幹郎と、初の大作オペラに挑みます。ピットには大野和士が音楽監督を務める東京都交響楽団を迎えることとなりました。また笈田ヨシが演出するのも大きな話題。ピーター・ブルックとの数々の共同作業を振り出しに、俳優として大活躍していますが、ヨーロッパではオペラ演出家としての業績も際立っています。現代作品も多く手掛ける彼がどんな世界を見せてくれるか、期待は尽きません。新たな傑作が生まれる瞬間に、どうぞお立ち会いください。

## あらすじ

【第1幕】舞台は平安時代。歌の名家に生まれた国司の宗頼と、権勢を振るう家の娘、うつろ姫の婚礼の儀が執り行われている。歌の道を捨て弓術に邁進する宗頼を父は責め、宗頼は彼の妻に身持ちの悪いうつろ姫をあてがわれたことに怒る。叔父で弓の達人弓麻呂は、歌の血が濃い間は、第一の矢(知の矢)、第二の矢(殺の矢)の奥義を悟ることはできないと告げ、うつろ姫の寝所の男を射殺す。宗頼も次の男を射殺すが、うつろ姫は意に介さない。宗頼の家来、藤内はこの様子にうつろ姫を利用して国を支配する野望を燃やす。狩りに出た宗頼は怪しい魅力を持つ千草と出逢う。

【第2幕】千草の虜となる宗頼。月の光に照らされ、千草が狐の化身であることがわかる。狐の妖術に触れた宗頼は第三の魔の矢を悟り、叔父の弓麻呂を射殺す。藤内はうつろ姫と結ばれ、国司を狙う。一方、忘れ草を求めて、宗頼は弓に化けた千草とともに山へと向かう。山の中では岩山に仏の顔を彫る平太が一人で暮らしている。宗頼が平太の彫った仏の顔を射ると、宗頼諸共岩山が崩れ落ちる。



西村 朗

# 紫苑物語

NISHIMURA Akira / Asters

全2幕(日本語上演/字幕付)

原作 .....	石川 淳
Original by	ISHIKAWA Jun
台本 .....	佐々木幹郎
Libretto by	SASAKI Mikiro
作曲 .....	西村 朗
Music by	NISHIMURA Akira
指揮 .....	大野和士
Conductor	ONO Kazushi
演出 .....	笈田ヨシ
Production	OIDA Yoshi
美術 .....	トム・シエンク
Set Design	Tom SCHENK
衣裳 .....	リチャード・ハドソン
Costume Design	Richard HUDSON
照明 .....	ルッツ・デッペ
Lighting Design	Lutz DEPPE
監修 .....	長木誠司
Supervisor	CHOKI Seiji
宗頼 .....	高田智宏
Muneyori	TAKADA Tomohiro
平太 .....	大沼 徹
Heita	ONUMA Toru
うつろ姫 .....	清水華澄
Princess Utsuro	SHIMIZU Kasumi
千草 .....	臼木あい
Chigusa	USUKI Ai
藤内 .....	村上敏明
Tonai	MURAKAMI Toshiaki
	ほか
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京都交響楽団
Orchestra	Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

2019年	2月	17日(日)14:00	20日(水)19:00
		23日(土)14:00	24日(日)14:00
オペラパレス			

【チケット料金】 S:16,200円 ・ A:12,960円 ・ B:8,640円 ・ C:6,480円 ・ D:3,240円

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 作曲:西村 朗

Music by NISHIMURA Akira

東京藝術大学卒業。同大学院終了。西洋の現代作曲技法を学ぶ一方で、アジアの伝統音楽、宗教、美学、宇宙観等に強い関心を抱き、そこから導いたヘテロフォニーなどのコンセプトにより、多数の作品を発表。日本音楽コンクール作曲部門第1位(74)、エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞(77)、ルイジ・ダッラピッコラ作曲賞(77)、尾高賞(88・92・93・08・11)、京都音楽賞(91)、日本現代芸術振興賞(94)、エクソンモービル音楽賞(01)、サントリー音楽賞(04)、毎日芸術賞(05)等受賞多数、2013年には紫綬褒章を授与される。この他、02年度芸術祭大賞、05年度芸術祭優秀賞に作品が選ばれている。1993～94年、オーケストラ・アンサンブル金沢、1994～97年、東京交響楽団のコンポーザー・イン・レジデンス。2000年よりいづみシンフォニエッタ大阪、及び2010年草津夏期国際音楽フェスティバルの音楽監督。2007年東京オペラシティ「コンポジウム2007」のテーマ作曲家。NHK-FM「現代の音楽」「N響アワー」司会など放送でも活躍。海外でもウルティマ現代音楽祭(オスロ)、「ノルマンディの10月」音楽祭(ルーアン)などの多くの新作委嘱のほか、ウィーン・モデルン音楽祭、「ワルシャワの秋」現代音楽祭等で作品が演奏されており、コンクールの審査委員も務めている。現在、東京音楽大学教授。

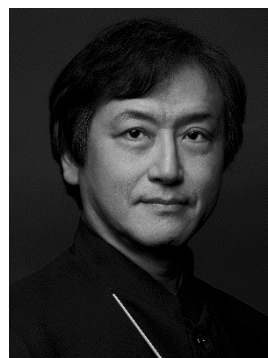


## 指揮:大野和士

Conductor: ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。ピアノ、作曲を安藤久義氏、指揮を遠藤雅古氏に師事。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年イタリアの「トスカニーニ国際指揮者コンクール」優勝。以後、世界各地でオペラ公演ならびにシンフォニーコンサートの客演で聴衆を魅了し続けている。90～96年クロアチア、ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年ドイツ、バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年ベルギー王立歌劇場(モネ劇場)音楽監督。12～15年イタリアのアルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団ならびにバルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年6月にミラノ・スカラ座デビュー。その後、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭への出演などが相次いでいる。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年5月、大野和士が9年間率いたリヨン歌劇場は、インターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス 2017」を獲得。6月にはフランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受勲。同時にリヨン市からもリヨン市特別メダルが授与された。

16年9月より新国立劇場オペラ芸術参与。18年9月よりオペラ芸術監督に就任予定。

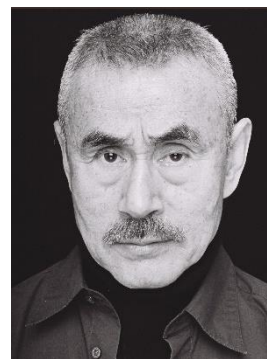


## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 演出: 笈田ヨシ

Production: OIDA Yoshi

文学座、劇団四季を経て、1968年よりピーター・ブルック率いる国際演劇研究センターに所属。以後パリを拠点に俳優、演出家として活躍している。俳優としては、ピーター・ブルック演出『オルガスト』（71年）、『マハーバーラタ』（87年）『ザ・マン・フー』（97年）サイモン・マクバーニー演出『春琴』（08年）、串田和美演出『三人吉三』（14年）、ドリアン・ロッシ演出『東京物語』（16年）などの舞台、『ピーター・グリーナウェイの枕草子』（96年）『最後の忠臣蔵』『沈黙』『ラストレシピ〜麒麟の下の記憶』などの映画に出演。演劇の演出家としてはダンテ『神曲』（82年）安部公房『砂の女』（95年）三島由紀夫『サド侯爵夫人』（96年）ベケット『勝負の終わり』（97年）ジュネ『女中たち』（01年）フォッセ『秋の夢』（01年）など、ウィーン・ブルク劇場、ベルリン・シャウビューネ、ローマ・トラヴェステレ劇場などのヨーロッパ各地で活躍。近年はオペラ・音楽劇の演出にも進出し、ボローニャ歌劇場『ナブッコ』（06年）、オールドバラ音楽祭『ヴェニスに死す』（07年）、ポツダム、ビーレフェルト、メキシコ・モンテレー『冬の旅』（07年）、『ドン・ジョヴァンニ』（09年）、『真珠採り』（12年）、東京芸術劇場ほか『蝶々夫人』（16年）、『戦争レクイエム』（17年）などを手掛けている。著書も多く、十数か国語に翻訳され世界中で読まれている。フランス文化勲章シュヴァリエ（92年）、オフィシエ（07年）、コマンダン（13年）を受章。新国立劇場初登場。



## 宗頼: 高田智宏

Muneyori: TAKADA Tomohiro

国立音楽大学音楽学部声楽科卒業、二期会オペラ研修所を経て、国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻（ドイツ歌曲）を首席で修了。2005年第4回静岡国際オペラコンクール「三浦環特別賞」を受賞。2006年第4回長久手国際オペラ声楽コンクール優勝。2003年より小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトIV～VIに参加し、ロッシーニ『セビリアの理髪師』フィガロのカヴァーキャストなどを務める。2007年9月よりキール歌劇場専属歌手として『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサー、『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、『ドン・カルロ』ロドリゴ他、多数の主演を務め主に海外を拠点に活躍中。近年、国内でも佐渡裕プロデュースオペラに主演で多数出演、15年の『椿姫』ジェルモン役では絶賛を博す。これまでにウーヴェ・ハイルマン、秋葉京子、野崎靖智の各氏に師事。2017年12月、ドイツ・シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州から宮廷歌手の称号を授与されている。現在、ドイツ在住。



## 平太: 大沼 徹

Heita: ONUMA Toru

東海大学教養学部芸術学科音楽学課程卒業、同大学大学院修了。二期会オペラ研修所第51期マスタークラス修了。修了時に最優秀賞及び川崎静子賞受賞。10年秋よりドイツ・マイセンへ留学。09年第14回日本モーツァルト音楽コンクール声楽部門第1位。第21回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。オペラでは『ヘンゼルとグレーテル』ペーター、東京二期会『サロメ』ヨハナーン、『オテロ』イアゴ、『魔笛』パパゲーノ、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナールなどに出演。新国立劇場では『サロメ』2人のナザレ人1とカッパドキア人、『沈黙』ヴァリニャーノ、『魔笛』弁者、『トスカ』アンジェロッティ、鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレスに出演。17/18シーズンは『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィデリオ』囚人2に出演する予定。二期会会員。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## うつろ姫:清水華澄

Princess Utsuro : SHIMIZU Kasumi

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員としてポーロニャに留学。二期会に『仮面舞踏会』ウルリカでデビュー後、『アイダ』アムネリス、『フィガロの結婚』マルチェッリーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナなどで高い評価を得る。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『神々の黄昏』第二のノルン、『チェネレントラ』ティーズベ、『オテロ』エミーリアなどに出演、特に平成22年度高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』では急遽タイトルロールに出演して大絶賛された。2012年の日中国交正常化40周年記念『アイダ』（コンサート形式）では東京公演、北京公演ともアムネリスに出演し、注目を集めた。2015年10月『ラインの黄金』フロスヒルデ、16年4月『アンドレア・シェニエ』ベルシ、17年4月『オテロ』エミーリアに出演。二期会会員。



## 千草:白木あい

Chigusa : USUKI Ai

東京藝術大学卒業。同大学大学院修士課程・博士後期課程修了。博士号（音楽）取得。二期会オペラストゥーディオ修了。安宅賞・松田トシ賞・三菱地所音楽賞受賞。第72回日本音楽コンクール第1位。06年ザルツブルクのモーツァルテウム音楽院に留学。国内では東京二期会『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、日生劇場（及び韓国公演）『夕鶴』つう、『ヘンゼルとグレーテル』（プレーメン劇場版）グレーテル、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『ラ・ボエーム』ムゼッタ、日生劇場開場50周年記念『リア』コーディリア、狂言演出による『リヴィエッタとトラッコロ』リヴィエッタ、北とびあ国際音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ等を演じる。新国立劇場にはバレエ公演オルフ「カルミナ・ブラーナ」ソプラノソロ、新国立劇場鑑賞教室『カルメン』フラスキータ、同鑑賞教室・関西公演『愛の妙薬』アディーナに出演するほか、「NHKニューイヤーオペラコンサート」などコンサートでもソリストとして活躍している。二期会会員。



## 藤内:村上敏明

Tonai : MURAKAMI Toshiaki

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期生修了。01年12月より文化庁派遣芸術家在外研修員として2年間ポーロニャに留学。第9回バタフライ世界コンクール・グランプリなど受賞多数。これまでに『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『黒船・夜明け』領事、『修善寺物語』源左金吾頼家、『ドン・カルロ』レルマ伯爵／王室の布告者、鑑賞教室『蝶々夫人』ピンカートン、鑑賞教室『椿姫』アルフレード、鑑賞教室『愛の妙薬』ネモリーノ、『オテロ』ロデリーゴなどに出演。2018/2019シーズンは『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョにも出演を予定している。藤原歌劇団団員。



2019年3/19~26  
<レパートリー>  
Repertory

# ウェルテル

Werther

オペラパレス | 4回公演 | 全4幕(フランス語上演/字幕付)

●会員先行販売期間: 2018年11/3(土・祝)~11/13(火)

●一般発売日: 2018年11/17(土)

初演: 1892年2月16日/ウィーン宮廷歌劇場

作曲: ジュール・マスネ

原作: ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ

台本: エドゥアール・ブロー、ポール・ミリエ、ジョルジュ・アルトマン



## プロダクションについて

切ない恋の苦しみを描いて世界中で読み継がれている、ゲーテ作『若きウェルテルの悩み』。フランス・オペラを代表する作曲家マスネによるオペラ『ウェルテル』は、ゲーテの小説にフランスらしいロマンティックな情熱が加わり、より身近に感じられる作品となっています。劇的な序曲に始まり、シャルロットの「手紙の歌」、ウェルテルが歌う名アリア「春風よ、なぜ目を覚まさせるのか」など、思いが繊細につづられていく名シーンにあふれています。2016年に初演されたニコラ・ジョエルのプロダクションは作品の世界が丁寧に紡がれ、ウェルテルの心情が胸に迫る名舞台です。今回ウェルテルに迎えるのは、リリカルで、かつ凝縮度の高い美声で世界中を魅了するサイミール・ピルグ。また、日本が生んだスター藤村実穂子のロールデビューにも注目です。知的でセンシティブなアプローチを特徴とする彼女がどんなシャルロット像を創り出すでしょう。国立ボルドー・アキテーヌ管弦楽団音楽監督のポール・ダニエルを指揮に迎え、万全の態勢でお届けする舞台です。

## あらすじ

【第1幕】7月。子供たちがクリスマス・キャロルの練習をしている大法官の家に、詩人ウェルテルがやってくる。彼は、舞踏会で大法官の長女シャルロットの相手をつとめるために来たのだ。幼い弟妹たちの母親代わりをするシャルロットの美しい佇まいに、ウェルテルの胸がときめく。舞踏会から帰宅したウェルテルはたまたまシャルロットに愛を告白する。しかし彼女には、亡くなった母と約束した婚約者アルベールがいた。ウェルテルは絶望する。

【第2幕】9月、牧師の金婚式のため、教会に人が集まっている。結婚して3か月目のシャルロットとアルベールが教会に入る様子を、ウェルテルは遠くから眺めている。シャルロットの妹ソフィーがウェルテルへの好意を口にする。教会から出てきたアルベールに明るく振る舞うウェルテルだが、シャルロットには詰め寄り、再び愛を訴える。その思いに応えられないシャルロットは、街を離れることをウェルテルに勧め、クリスマスに再会することを約束する。ウェルテルは永遠に街を出ていくことを決意する。

【第3幕】クリスマス・イブの夕方。ウェルテルからの手紙を何度も読み返し、彼への思いに揺れるシャルロットの前に、約束通りウェルテルが現れる。オシアンに詩に思いを託して朗読したウェルテルは、激しく愛を告白する。シャルロットは思わず抱かれるが、決然と別れを告げて部屋から去る。アルベールは、ウェルテルから妻宛ての手紙を見て怒りに燃える。手紙の中で彼は旅に携行する銃を望んでおり、アルベールは使用人に届けさせる。

【第4幕】胸さわぎを覚えたシャルロットがウェルテルの家へ向かうと、拳銃自殺を図ったウェルテルが瀕死の状態で見つかった。ウェルテルは、君を思って死ぬるのは何より幸せだと語り、シャルロットは、初めて会った時から愛していたと告白し、口づけする。子供たちが歌うクリスマス・キャロルが聴こえるなか、ウェルテルは息を引き取る。

ジュール・マスネ

# ウェルテル

Jules MASSENET / Werther

全4幕(フランス語上演/字幕付)

指揮 .....	ポール・ダニエル
Conductor	Paul DANIEL
演出 .....	ニコラ・ジョエル
Production	Nicolas JOEL
美術 .....	エマニュエル・ファーヴル
Set Design	Emmanuelle FAVRE
衣裳 .....	カティア・デュフロ
Costume Design	Katia DUFLOT
照明 .....	ヴィニチオ・ケリ
Lighting Design	Vinicio CHELI
ウェルテル .....	サイミール・ピルグ
Werther	Saimir PIRGU
シャルロット .....	藤村実穂子
Charlotte	FUJIMURA Mihoko
アルベール .....	黒田 博
Albert	KURODA Hiroshi
ソフィー .....	幸田浩子
Sophie	KOUDA Hiroko
大法官 .....	伊藤貴之
Le Bailli	IIO Takayuki
シュミット .....	糸賀修平
Schmidt	ITOGA Shuhei
ジョアン .....	駒田敏章
Johann	KOMADA Toshiaki
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

2019年 3月 19日(火)18:30 21日(木・祝)14:00  
24日(日)14:00 26日(火)14:00

オペラパレス

【チケット料金】 S:23,760円 ・ A:19,440円 ・ B:12,960円 ・ C:7,560円 ・ D:4,320円

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:ポール・ダニエル

Conductor: Paul DANIEL

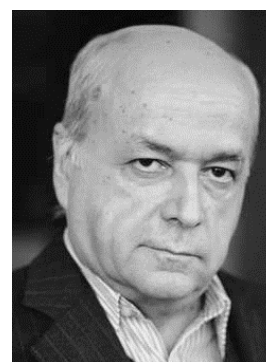
イギリス生まれ。1987-1990年オペラ・ファクトリー、90-97年オペラ・ノース、97-2005年イングリッシュ・ナショナル・オペラのそれぞれ音楽監督を務め、現在国立ボルドー・アキテーヌ管弦楽団およびガリシア・ロイヤルフィルハーモニー管弦楽団音楽監督。このほか英国ロイヤルオペラ、ブリュッセル・モネ劇場、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などに出演している。コンサートでは、フィルハーモニア管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、バーミンガム交響楽団、ゲヴァントハウス管弦楽団、クリーブランド管弦楽団、ニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィルなどを指揮した。オペラでは『コジ・ファン・トゥッテ』『フィガロの結婚』『ルチア』『シモン・ボッカネグラ』『真珠採り』『トリスタンとイゾルデ』『こびと』『ヴェニスに死す』『マクロブロス事件』『村のロメオとジュリエット』など幅広い作品を取り上げている。ナクソスレーベルのエルガー交響曲第3番をはじめ、ボルドー・アキテーヌ国立管とは多くの録音を行い、またブリュッセル・モネ劇場でのバーバラ・ハンニガン主演『ルル』はDVD発売された。98年にはオリヴィエ賞受賞、2000年にはCBEに叙せられている。新国立劇場初登場。



演出:ニコラ・ジョエル

Production: Nicolas JOEL

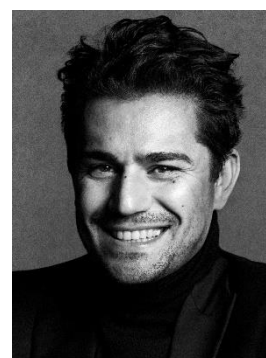
フランスのパリ生まれ。1973年から78年までストラズプールのライン・オペラで演出アシスタントを務めた後、79年にライン・オペラトリヨン歌劇場で「ニーベルングの指環」で演出家としてデビューした。90年から2009年までトゥールーズ・キャピトル劇場の芸術監督を務めた。ウィーン国立歌劇場『アイダ』、サンフランシスコ・オペラ『サムソンとデリラ』、コペンハーゲン王立歌劇場『ローエングリン』、アムステルダム歌劇場『エウゲニ・オネーギン』『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』、チューリヒ歌劇場『リゴレット』『椿姫』『運命の力』、ミラノ・スカラ座『つばめ』『マノン』、英国ロイヤルオペラ『ロメオとジュリエット』、ブエノスアイレスのコロン劇場『カルメン』、メトロポリタン歌劇場『アンドレア・シェニエ』など多くの話題作を手がけた。オランジュ音楽祭では『さまよえるオランダ人』『ナブッコ』『アイダ』『オテロ』『カルメン』『ロメオとジュリエット』などを続けて演出、成功を収めた。また芸術監督を務めたトゥールーズ・キャピトル劇場では『イル・トロヴァトーレ』『ファルスタッフ』『エレクトラ』『エウゲニ・オネーギン』『リゴレット』『ロメオとジュリエット』などを演出。パリ・オペラ座をはじめ各地で『ロメオとジュリエット』『トゥーランドット』『タイス』『ラ・ジョコンダ』『シチリア島の夕べの祈り』『ディドとエネアス』『ファウスト』などの作品が上演されている。2009/2010 シーズンから2013/2014シーズンまでパリ・オペラ座総監督。



ウェルテル:サイミール・ピルグ

Werther : Saimir PIRGU

アルバニア出身。イタリアでパヴァロッティのもとで学び、22歳でアバドに『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドに抜擢されフェラーラ歌劇場に出演、2004年ザルツブルク音楽祭に同役でデビュー、同音楽祭の主要な役での最年少出演を果たす。05年にウィーン国立歌劇場、ハンブルク歌劇場、06年ボローニャ歌劇場、チューリヒ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、07年ナポリ・サンカルロ歌劇場、ベルリン州立歌劇場、英国ロイヤルオペラにデビュー。これまでにメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ヴェローナ音楽祭などに出演。最近の出演に、モスクワ・ボリショイ劇場『ファウストの劫罰』タイトルロール、英国ロイヤルオペラ、オペラ・オーストラリア、シマノフスキ『ロジェ王』羊飼い、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ヴェローナ音楽祭『リゴレット』マントヴァ公爵、メトロポリタン歌劇場、サンタフェ・オペラ、ベルリン州立歌劇場『椿姫』アルフレード、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ『愛の妙薬』ネモリーノ、ザルツブルク音楽祭、ウィーン楽友協会、バイエルン放送響、パリ・フィルハーモニー、アムステルダム・コンセルトヘボウでのヴェルディ『レクイエム』などがある。今後の主な予定はナポリ・サンカルロ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』ガブリエーレ・アドルノ、バルセロナ・リセウ大劇場『ロメオとジュリエット』ロメオ、バイエルン州立歌劇場『リゴレット』マントヴァ公爵など。新国立劇場には17/18シーズン『愛の妙薬』ネモリーノに出演予定。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## シャルロット:藤村実穂子

Charlotte : FUJIMURA Mihoko

東京藝術大学およびミュンヘン国立音楽大学に学ぶ。数々のコンクールに優勝後、1995-2000年にはグラーツ歌劇場のアンサンブルに所属する。02年にバイエルン州立歌劇場およびパイロイト音楽祭に出演し国際的な注目を集め、以後、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・シヤトレ座、マドリッドのレアル劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パイロイト音楽祭などに定期的に出演している。オペラのレパートリーには『パルジファル』クンドリー、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ニーベルングの指環』フリッカ、『イドメネオ』イダマンテ、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『ドン・カルロ』エボリ公女など、コンサートでも活躍し、『ヴェーゼンドク歌曲集』、ヴェルディ『レクイエム』、『大地の歌』『グレの歌』などがあり、クラウドイオ・アバド、チョン・ミョンフン、クリスティアン・ティーレマン、ファビオ・ルイーゼ、クルト・マズア、クリストフ・エッセンバッハらと定期的共演している。ウィーン・フィルをはじめとする一流オーケストラにも定期的に招かれており、パッパーノ指揮『トリスタンとイゾルデ』をはじめCDも多く発売されている。新国立劇場では01年『ラインの黄金』02年『ワルキューレ』フリッカ、01年『ドン・カルロ』エボリ公女、04年『神々の黄昏』ヴァルトラウテ、06年『イドメネオ』イダマンテに出演。



## アルベール:黒田 博

Albert : KURODA Hiroshi

京都市立芸術大学卒業、東京藝術大学大学院修了。1988年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールでオペラ・デビュー。これまでに『ラ・ボエーム』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『エウゲニ・オネーギン』などに出演。最近では二期会『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『パルジファル』アムフォルタス、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『タンホイザー』ヴォルフラム、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『椿姫』ジェルモン、びわ湖ホール・iichiko総合文化センター・神奈川県民ホール『オテロ』イアーゴなどに出演。新国立劇場では『天守物語』姫川図書之助、『こうもり』ファルケ博士、『忠臣蔵』堀部安兵衛、『俊寛』タイトルロール、『愛怨』若草皇子、『黒船一夜明け』吉田、『軍人たち』マリ大尉、『修禅寺物語』面作師夜叉王、『鹿鳴館』影山悠敏伯爵、『夜叉ヶ池』学円、『沈黙』フェレイラ、『ラインの黄金』ドンナー、オペラ鑑賞教室・関西公演『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。2017/18シーズンは『フィデリオ』ドン・フェルナンドに出演予定。二期会会員。



## ソフィー:幸田浩子

Sophie: KOUDA Hiroko

東京藝術大学首席卒業。同大学院、文化庁オペラ研修所終了後、ボローニャとウィーンで研鑽を積む。数々の国際コンクールに上位入賞後、欧州の主要歌劇場へ次々とデビュー。ベッリーニ大劇場『清教徒』エルヴィーラ、ローマ歌劇場『ホフマン物語』オランピア、シュトゥットガルト歌劇場『皇帝ティートの慈悲』セルヴィーリア等で活躍。2000年にはウィーン・フォルクスオーパーと専属契約。同劇場『ファルスタッフ』ナンネッタ、『魔笛』夜の女王等に出演。日本では、二期会『ばらの騎士』ソフィー等に出演の他、主要オーケストラとの共演や全国各地でのリサイタル、またNHK「気ままにクラシック」のパーソナリティやBSフジ「レシピ・アン」のMC等多彩な活動を展開。第14回五島記念文化賞オペラ新人賞、第38回エクソンモービル音楽賞奨励賞受賞。新国立劇場には『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ、『ホフマン物語』オランピア、『チェネレントラ』クロリンダ、『鹿鳴館』頭子、『夜叉ヶ池』百合などに出演している。2018/2019シーズンは『ファルスタッフ』ナンネッタにも出演を予定している。二期会会員。





# フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ

Eine florentinische Tragödie/ Gianni Schicchi

オペラパレス | 4回公演

『フィレンツェの悲劇』(ドイツ語上演/字幕付)

『ジャンニ・スキッキ』(イタリア語上演/字幕付)

●会員先行販売期間: 2018年11/4(日)~11/19(月)

●一般発売日: 2018年11/23(金・祝)

## 【フィレンツェの悲劇/ Eine florentinische Tragödie】

初演: 1917年1月30日/シュトゥットガルト宮廷劇場

作曲・台本: アレクサンダー・ツェムリンスキー

原作: オスカー・ワイルド

## 【ジャンニ・スキッキ/ Gianni Schicchi】

初演: 1918年12月14日/メトロポリタン歌劇場

作曲: ジャコモ・プッチーニ

原作: ダンテ・アリギエーリ

台本: ジョヴァッキーノ・フォルツァーノ

大野次期芸術監督が掲げる大きな方針の一つはレパートリーの拡充です。その第一歩として今回企画したのが、フィレンツェを舞台にした作品によるダブルビル。耽美的で絢爛豪華な音響世界が現出するツェムリンスキー作曲『フィレンツェの悲劇』と、シニカルな笑いに満ちた喜劇『ジャンニ・スキッキ』という組み合わせは、フィレンツェという街の複雑な魅力を堪能させてくれることでしょう。後期ロマン派を得意とし、日本を代表するオペラ指揮者のひとり沼尻竜典に、いま日本随一の売れっ子オペラ演出家・栗國淳という二人がタッグを組むのも大きな魅力。このほか『フィレンツェの悲劇』のビアンカはヨーロッパで活躍し、大野次期監督が自ら見出した齊藤純子、『ジャンニ・スキッキ』のラウレッタとリヌッチョのカップルには砂川涼子と村上敏明。これからの日本のオペラ界を牽引する人材が揃いました。彼らが『フィレンツェの悲劇』シモーネのセルゲイ・レイフェルクス、『ジャンニ・スキッキ』タイトルロールのカルロス・アルバレスら世界のスターとどう伍していくのか、ぜひご期待ください。

## あらすじ

### 『フィレンツェの悲劇』

織物商人シモーネが旅から帰ると、妻ビアンカの許にフィレンツェ公爵の息子グイード・バルディがいる。シモーネはグイードが買い物に来ただけのように振る舞い、一番高い物を買ってやろうとすると、グイードはビアンカを所望する。シモーネは紛らわせようと宴を供するが、二人の様子を見て疑いを強め、席を立ってしまう。帰ろうとするグイードはビアンカに長いキスをし、ビアンカは愛を誓う。シモーネとグイードは決闘で剣を交えるが、最後にシモーネはグイードを絞め殺す。ビアンカはシモーネの強さに恍惚とし、グイードの死骸のうえで二人は見つめあう。

### 『ジャンニ・スキッキ』

裕福な商人ブオーゾ・ドナーティはまさに死んだばかり。親戚が集まって悲しんでいるが、実は皆考えていることは遺産のこと。甥のリヌッチョは遺言状を見つけ、それをかたにジャンニ・スキッキの娘ラウレッタとの結婚を認めるように伯母ツィータに迫る。ツィータはしぶしぶ認め、いざ遺言状を開くが遺産は修道院にと書かれている。書き換えてしまおうとたくらみ、それをジャンニ・スキッキに依頼する。現れたジャンニ・スキッキは断るが、かわいい娘のラウレッタに頼まれ引き受ける。しかしブオーゾになりすまして遺言を口述する段になると、すべてはジャンニ・スキッキに遺すと言い出す。親戚たちは怒り狂うがすでに後の祭り。最後にジャンニ・スキッキが口上を述べ、幕が降りる。

アレクサンダー・ツェムリンスキー／ジャコモ・プッチーニ

# フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ

Alexander ZEMLINSKY "Eine florentinische Tragödie" / Giacomo PUCCINI "Gianni Schicchi"

『フィレンツェの悲劇』全1幕(ドイツ語上演／字幕付)／『ジャンニ・スキッキ』全1幕(イタリア語上演／字幕付)

指揮 Conductor	沼尻竜典 NUMAJIRI Ryusuke
演出 Production	粟國 淳 AGUNI Jun
美術 Set Design	横田あつみ YOKOTA Atsumi
衣裳 Costume Design	増田恵美 MASUDA Emi
照明 Lighting Design	大島祐夫 OSHIMA Masao

【フィレンツェの悲劇／Eine florentinische Tragödie】

グイド・バルディ Guido Bardi	ヴゼヴォロド・グリヴノフ Vsevolod GRIVNOV
シモーネ Simone	セルゲイ・レイフェルクス Sergei LEIFERKUS
ピアンカ Bianca	齊藤純子 SAITO Junko

【ジャンニ・スキッキ／Gianni Schicchi】

ジャンニ・スキッキ Gianni Schicchi	カルロス・アルバレス Carlos ALVAREZ
ラウレッタ Lauretta	砂川涼子 SUNAKAWA Ryoko
ツィータ Zita	寺谷千枝子 TERATANI Chieko
リヌッチョ Rinuccio	村上敏明 MURAKAMI Toshiaki
ゲラルド Gherardo	青地英幸 AOCHI Hideyuki

ほか

管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra
------------------	--

2019年	4月	7日(日)14:00	10日(水)19:00
		14日(日)14:00	17日(水)14:00
オペラパレス			

【チケット料金】 S:27,000円 ・ A:21,600円 ・ B:15,120円 ・ C:8,640円 ・ D:5,400円

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:沼尻竜典

Conductor: NUMAJIRI Ryusuke

びわ湖ホール芸術監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督、リユーベック歌劇場首席客演指揮者。プザンソン国際指揮者コンクール優勝以来、ロンドン交響楽団、モントリオール交響楽団、ベルリン・ドイツ交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、シドニー交響楽団等欧米各国のオーケストラに客演。国内においてもNHK交響楽団を指揮してのデビュー以来多くのオーケストラにおいて首席客演指揮者を歴任。オペラ指揮者としてもケルン、ミュンヘン、ベルリン、シドニー、新国立劇場、びわ湖ホール等にて数々の演目を指揮、成功に導いている。2011年夏にはサイトウ・キネン・オーケストラへデビュー、14年1月にはオペラ『竹取物語』を作曲・世界初演、今後も国内外で再演が予定されている。1991年第1回「出光音楽賞」、99年第7回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2001年第51回芸術選奨文部科学大臣新人賞、04年第3回齋藤秀雄メモリアル基金賞、05年第46回毎日芸術賞、第23回中島健蔵音楽賞、11年文化庁芸術祭優秀賞、第61回芸術選奨文部科学大臣賞、17年紫綬褒章をそれぞれ受賞。新国立劇場では『カルメン』『フィガロの結婚』『鹿鳴館』『トスカ』、鑑賞教室『カルメン』『トスカ』を指揮。



演出:粟國 淳

Production: AGUNI Jun

東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。新国立劇場ではF.ゼッフィレリ、L.ロンコーニなど巨匠達の演出助手を務めた。1998年から文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H・ブロックハウス氏のもとで研鑽を積んだ後、P.ファッジオーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。97年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイーダ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『イル・カンピエッロ』など多数の作品を手掛ける。海外では03年サッサリのヴェルディ劇場『アンドレア・シェニエ』でイタリア・デビュー。11年に同劇場で『エルナーニ』、スロベニア国立マリボール歌劇場『ホフマン物語』を演出している。最近の国内の活動としては、14年の日生劇場『アイナダマール』（日本初演）、15年に公演された藤原歌劇団『ファルスタッフ』、びわ湖ホール『オテロ』、紀尾井ホール『オリンピアデ』などがある。11年度エクソンモービル音楽賞 奨励賞を受賞。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』、小劇場オペラ『外套』を演出。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所演出主任講師。



ガイド・バルディ (『フィレンツェの悲劇』):ヴゼヴォロド・グリヴノフ

Guido Bardi : Vsevolod GRIVNOV

モスクワ・グネーシン音楽学校に学ぶ。その後モスクワ・ボリショイ劇場のソリストとなる国際的なキャリアをスタート、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、ジュネーブ大劇場、マドリード王立劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、サンフランシスコ・オペラなどに出演し、ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー、ドナルド・ラニクルズ、マイケル・ティルソン・トーマス、ジェームズ・コンロン、クリスティアン・ヤルヴィ、ユーリ・テミルカーノフらと共演している。レパートリーは『アンナ・ボレーナ』レスター伯爵、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『仮面舞踏会』リカルド、『ルイザ・ミラー』ロドルフォ、『ドン・カルロ』タイトルロール、『アイーダ』ラダメス、『アドリアーナ・ルクヴルール』マウリツィオ、『カルメン』ドン・ホセ、さらにはロシア・オペラの殆どのテノール役と、幅広い。コンサートでもヴェルディ『レクイエム』、ロシーニ『スタバト・マーテル』、ストラヴィンスキー『エディプス王』『結婚』、チャイコフスキー『ロメオとジュリエット』を歌っている。近年では『ラインの黄金』ローゲにデビューした他、セミヨン・ビシュコフ指揮『ホヴァーンシチナ』でプロムスに出演した。新国立劇場初登場。

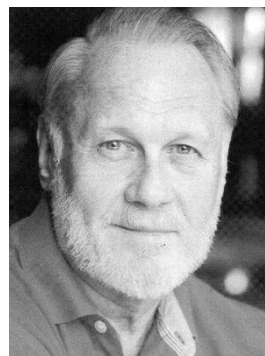


主要キャスト・スタッフ プロフィール

**シモーネ (『フィレンツェの悲劇』):セルゲイ・レイフェルクス**

Simone : Seigei LEIFERKUS

ロシア生まれ。レニングラード(現サンクト・ペテルブルク)音楽院に学ぶ。1977年キーロフ・オペラ(現マリインスキー劇場)のメンバーとなり国際的な注目を集める。その後、英国ロイヤルオペラ、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、サンフランシスコ・オペラ、メトロポリタン歌劇場、ネザーランド・オペラ、テアトロ・コロネ、エジンバラ音楽祭、ブレゲンツ音楽祭、ザルツブルクイースター音楽祭など、世界中で活躍している。またロンドン響、ニューヨーク・フィル、ボストン響、フィラデルフィア管などに招かれ、クラウディオ・アバド、ヴァレリー・ゲルギエフ、ベルナルド・ハイティンク、ズービン・メータ、リッカルド・ムーティ、小澤征爾、ゲオルク・ショルティらと共に演奏。レパートリーには『エウゲニオ・オネーギン』『ドン・ジョヴァンニ』『ナブッコ』『マクベス』『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、『アイダ』『アモナズロ』『ローエングリン』テルラメント、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『トスカ』スカルピア、『ファウストの劫罰』メフィストフェレスなどがある。ムソルグスキー歌曲全集をはじめ、CD、DVDも数多い。新国立劇場には03年『トスカ』スカルピア、05年『アンドレア・シェニエ』ジェラルド、06年『こうもり』フランクに出演。



**ピアンカ (『フィレンツェの悲劇』):齊藤純子**

Bianca : SAITO Junko

東京都出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。フランス政府給費留学生として渡仏し、パリ、ニューヨーク、ボルドーなどで学ぶ。以後ボルドー大劇場、ナポリ・サンカルロ劇場、ラヴェンナ・ダンテ・アリギエーリ劇場、南チロル音楽祭、チロル音楽祭、サンタンデル音楽祭など欧州各地で活躍している。レパートリーには『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『パルジファル』クンドリー、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『フィデリオ』レオノーレ、『トスカ』『アルツィーラ』『カルメン』タイトルロール、『イドメネオ』イーリアなどがあり、コンサートでもモーツァルト『ハ短調ミサ』、ハイドン『天地創造』、フォーレ、ドヴォルザーク、シューマン『レクイエム』、ベートーヴェン、ベルリオーズ『荘厳ミサ』、ロッシニ、ペルゴレージ『スタバト・マーテル』などの宗教曲からシェーンベルク、ラヴェルの歌曲、さらにベリオ、エトヴェシュといった現代曲まで手掛けている。『アルツィーラ』『ニーベルングの指環』などCD、DVDも発売されている。新国立劇場初登場。



**ジャンニ・スキッキ (『ジャンニ・スキッキ』):カルロス・アルバレス**

Gianni Schicchi : Carlos ÁLVAREZ

スペイン生まれ。現代を代表するバリトンの一人。世界中の一流歌劇場で活躍しており、1998・99年ザルツブルク音楽祭『ドン・カルロ』ロドリゴ、08年『オテロ』イアーゴ、99年ロンドン交響楽団『オテロ』イアーゴ、99年ネザーランド・オペラ『道化師』トニオ、99年ミラノ・スカラ座『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、02年パリ・オペラ座『ドン・カルロ』ロドリゴ、03年ヴェローナ野外音楽祭『リゴレット』タイトルロール、05年メトロポリタン歌劇場『仮面舞踏会』レナート、06年『ルイザ・ミラー』ミラー、『リゴレット』タイトルロール、08年ウィーン国立歌劇場『運命の力』ドン・カルロなどに出演。ミラノ・スカラ座『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、ウィーン国立歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭『リゴレット』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭『オテロ』イアーゴ、トリノ国立歌劇場『トスカ』スカルピア、ジュネーヴ大劇場『ファルスタッフ』タイトルロール、リセウ大劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールなどに出演した。また2度のグラミー賞(01、05年)、カンヌクラシック賞(03年)、芸術ゴールドメダル(03年)など数々の受賞歴のほか、07年にはウィーン国立歌劇場宮廷歌手の称号を、また13年にはバルセロナ・リセウ大劇場ゴールドメダルを贈られている。新国立劇場には05年『マクベス』タイトルロールに出演。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

**ラウレッタ (『ジャンニ・スキッキ』): 砂川涼子**

Lauretta : SUNAKAWA Ryoko

武蔵野音楽大学首席卒業。同大学大学院修了。第69回日本音楽コンクール第1位ならびに海外派遣特別賞受賞。第16回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞など受賞多数。2001～2004年江副育英会オペラ奨学生として渡伊。五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、05年より再度留学。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで本格的なオペラ・デビュー。以後藤原歌劇団『イル・カンピエロ』ガスパリーナ、『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、びわ湖ホール『死の都』マリエッタ、『椿姫』ヴィオレッタ、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』アントニアなどに出演を重ね、日本を代表するソプラノの一人として活躍中。新国立劇場では『トゥーランドット』リユー、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『魔笛』パミーナ、『夜叉ヶ池』百合、『ウェルテル』ソフィーなどに出演。2017/18シーズンは『ホフマン物語』アントニア、2018/19シーズンはほかに『カルメン』ミカエラ、『トゥーランドット』リユーに出演予定。武蔵野音楽大学非常勤講師。藤原歌劇団団員。



**リヌッチョ (『ジャンニ・スキッキ』): 村上敏明**

Rinuccio : MURAKAMI Toshiaki

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期生修了。01年12月より文化庁派遣芸術家在外研修員として2年間ボローニャに留学。第9回バタフライ世界コンクール・グランプリなど受賞多数。これまでに『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『黒船・夜明け』領事、『修善寺物語』源左金吾頼家、『ドン・カルロ』レルマ伯爵／王室の布告者、鑑賞教室『蝶々夫人』ピンカートン、鑑賞教室『椿姫』アルフレード、鑑賞教室『愛の妙薬』ネモリーノ、『オテロ』ロデリーゴなどに出演。2018/2019シーズンは『紫苑物語』藤内にも出演を予定している。藤原歌劇団団員。



**ツイータ (『ジャンニ・スキッキ』): 寺谷千枝子**

Zita: TERATANI Chieko

東京藝術大学卒、同大学院終了。ハンブルク国立音楽大学声楽科、オペラ科共に首席で卒業。在学中、メスフィールド賞を受賞。1980年、オランダのセルトヘンボス国際声楽コンクール第2位入賞。81年ドイツのブレイマーハーフェン歌劇場とソロ専属契約を結び、『ばらの騎士』のオクタヴィアンでデビュー。以後ボン歌劇場、ハンブルク国立歌劇場などドイツを中心に活躍。また世界的ブームとなったポーランドの作曲家グレツキの交響曲第3番「悲歌のシンフォニー」を世界各地で初演している。日本でもサンティ、フルネ、インバル、レナルト、コルボ、シャイー、チョン、小澤征爾、若杉弘、大野和士など著名指揮者のもと数々のステージに迎えられ、その役作りと音楽の読みの的確さ、安定した歌唱は、常に高い評価と信頼を得ている。新国立劇場には08年『軍人たち』ヴェーゼナーの老母、コンサート・オペラ『ペレアスとメリザンド』ジュヌヴィエーヴで出演している。



2019年5/17~26  
<レパートリー>  
Repertory

# ドン・ジョヴァンニ

Don Giovanni

オペラパレス | 5回公演 | 全2幕<イタリア語上演/字幕付>

●会員先行販売期間:2018年12/9(日)~12/24(月・休)

●一般発売日:2019年1/5(土)

初演:1787年10月29日/プラハ国立劇場  
作曲:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト  
台本:ロレンツォ・ダ・ポンテ



## プロダクションについて

稀代の色事師か、はたまた自由の探究者か? 複雑な魅力にあふれたヒーロー、ドン・ファンは私たちの心を捕えて離しません。多くの芸術家に取り上げた中でも、モーツァルトの傑作『ドン・ジョヴァンニ』が示す存在感は圧倒的なもの。軽妙な喜劇でありながら、心理劇でもあり、さらに最後にもたらされるカタルシスの迫力に、オペラの最高傑作と称える声も少なくありません。今回のドン・ジョヴァンニはニコラ・ウリヴィエリ。余裕ある大人の色気で迫るドン・ファンです。対する女性陣には、スカラ座を振り出しにイタリア中の歌劇場を席卷しているホープ脇園彩がドンナ・エルヴィーラ、フレッシュな美声で急成長を遂げるマリゴーナ・ケルケジのドンナ・アンナ、新国立劇場オペラ研修所から羽ばたいた九嶋香奈枝のツェルリーナと伸び盛りの若手が揃いました。ドン・オッターヴィオにベルカントの諸役で大注目を集めるファン・フランシスコ・ガテルが登場、レポレッロとマゼットはジョヴァンニ・フルラネット、久保和範とベテランが固めます。指揮には若々しく引締まった音楽が魅力の俊英、フランチェスコ・ランツィロッタ。新たなドン・ジョヴァンニにご期待ください。

## あらすじ

【第1幕】従者レポレッロを引き連れ、夜な夜な女性の家へ忍び込む、稀代の色男ドン・ジョヴァンニ。今宵はドンナ・アンナの部屋へ行くが、彼女の父親である騎士長に見つかり、決闘となり騎士長を刺し殺してしまう。アンナは婚約者ドン・オッターヴィオに、犯人を探して復讐してほしいと求める。ジョヴァンニは通りすがりの女性に声をかけるが、それは昔の女ドンナ・エルヴィーラ。彼女はジョヴァンニに捨てられてもまだ彼を愛し、彼を探していたのだ。ジョヴァンニは大慌てで逃げる。後を託されたレポレッロは彼女に、ジョヴァンニはヨーロッパじゅうの2000人もの女性と関係しているのだから諦めるよう諭す。村で農夫マゼットと村娘ツェルリーナの結婚式が始まろうというとき、ジョヴァンニが来て花嫁を誘惑するが、すんでのところでエルヴィーラが止める。アンナは犯人探しの協力をジョヴァンニに求めるが、話すうち彼こそ犯人だと気づく。村人たちを招いてパーティを開くジョヴァンニは上機嫌。そんな彼をアンナたちは追及する。

【第2幕】ジョヴァンニはレポレッロと服を交換して変装し、エルヴィーラの小間使いを誘惑。マゼットと農民たちはジョヴァンニを殺そうとやってくるが、ジョヴァンニ扮するレポレッロに計画を話してしまい、逆に痛めつけられる。彼の服を着たレポレッロは命からがら逃げてきて、ジョヴァンニと落ち合う。すると、騎士長の墓の石像が、戒めの言葉を喋り出す。驚く2人だが、ジョヴァンニは臆せず石像を晚餐に招待する。夜、彼の家に本当に石像がやってきた。石像はジョヴァンニに悔い改めるよう迫るが、彼は拒否。石像はジョヴァンニの手を取って炎の中へ引きずり込み、地獄へと落ちるのだった。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

# ドン・ジョヴァンニ

Wolfgang Amadeus MOZART / Don Giovanni

全2幕〈イタリア語上演／字幕付〉

指揮 .....	フランチェスコ・ランツィロッタ
Conductor	Francesco LANZILLOTTA
演出 .....	グリシャ・アサガロフ
Production	Grischa ASAGAROFF
美術・衣裳 .....	ルイジ・ペーレゴ
Set and Costume Design	Luigi PEREGO
照明 .....	マーティン・ゲプハルト
Lighting Design	Martin GEBHARDT
ドン・ジョヴァンニ .....	ニコラ・ウリヴィエーリ
Don Giovanni	Nicola ULIVIERI
騎士長 .....	妻屋秀和
Il Commendatore	TSUMAYA Hidekazu
レポレッロ .....	ジョヴァンニ・フルラネット
Leporello	Giovanni FURLANETTO
ドンナ・アンナ .....	マリゴーナ・ケルケジ
Donna Anna	Marigona QERKEZI
ドン・オッターヴィオ .....	フアン・フランシスコ・ガテル
Don Ottavio	Juan Francisco GATELL
ドンナ・エルヴィーラ .....	脇園 彩
Donna Elvira	WAKIZONO Aya
マゼット .....	久保和範
Masetto	KUBO Kazunori
ツェルリーナ .....	九嶋香奈枝
Zerlina	KUSHIMA Kanae
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2019年 5月 17日(金)18:30 19日(日)14:00  
 22日(水)14:00 25日(土)14:00  
 26日(日)14:00(貸切)

オペラパレス

【チケット料金】 S:23,760円 ・ A:19,440円 ・ B:12,960円 ・ C:7,560円 ・ D:4,320円

主要キャスト・スタッフ プロフィール

**指揮: フランチェスコ・ランツイロッタ**

Conductor: Francesco LANZILLOTTA

イタリア生まれ。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院にて指揮と作曲を学び、その後ニューヨーク、マドリードにてマスターコースに参加した。2012/2013シーズンにはトリノRAI交響楽団にデビュー、また『兵士の物語』、スポンティーニ『仮面での逃走』でナポリ・サンカルロ歌劇場にデビューした。13/14シーズンにはトリノRAI響およびトスカニーニ・フィルを指揮した他、デ・ジョーザ『ドン・ケッコ』でナポリ・サンカルロ歌劇場、バッティステッリ『Il medico dei pazzi』世界初演でナンシー歌劇場およびフェニーチェ歌劇場に出演、フェニーチェ歌劇場では『人間の声』、ヤナーチェク『消えた男の日記』も指揮した。14年にはトスカニーニ・フィルの首席指揮者に就任、3年間務める。この他スイス・イタリア管弦楽団、ボルツァーノ・ハイドン管弦楽団、ポローニャ歌劇場管弦楽団、トスカーナ管弦楽団、ミラノ・ヴェルディ管弦楽団などを指揮しており、マッテオ・ダミーコ、エンニオ・モリコーネら現代作曲家の作品にも精力的に取り組んでいる。16/17シーズンにはモンペリエ歌劇場、エッセン・アールト劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルにデビュー。また17年7月の日生劇場での『ノルマ』での鮮烈な演奏は記憶に新しい。今後の予定にはザクセン州立歌劇場『リゴレット』、ハンガリー国立歌劇場『アルジェのイタリア女』などがある。新国立劇場初登場。



**演出: グリシャ・アサガロフ**

Production: Grischa ASAGAROFF

ドイツのジーゲン生まれ。ミュンヘン大学で音楽と演劇を学ぶ。1966年よりバイエルン州立歌劇場で舞台監督、演出助手の仕事を始め、ドルトムント歌劇場、ライン・ドイツ・オペラなどで助手を務め、ギュンター・レンネルト、ジャンニピエール・ポネルなどのもとで研鑽を積みながら国際的な活動をスタート。82年からチューリヒ歌劇場、86年からウィーン国立歌劇場首席演出家を務め、2012年までチューリヒ歌劇場芸術監督。新国立劇場では2004年『カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師』、06年『イドメネオ』、08、12年『ドン・ジョヴァンニ』の演出を手がけるほか、09年ポネル演出の『チェネレントラ』では、再演演出および演技指導で参加している。



**ドン・ジョヴァンニ: ニコラ・ウリヴィエーリ**

Don Giovanni : Nicola ULIVIERI

イタリア生まれ。ボルツァーノ音楽院に学ぶ。ベルカント歌手として世界中で活躍し、これまでにミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、ザルツブルク音楽祭、バルセロナ・リセウ大劇場、マドリード王立劇場、トリノ王立劇場、ローマ歌劇場、ブリュッセル・モネ劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭、エジンバラ音楽祭、フィレンツェ歌劇場、ポローニャ歌劇場、ワシントン・オペラ、ロサンゼルス・オペラ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどに出演。レパートリーには『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『ランスへの旅』ドン・プロフォンド、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アルジェのイタリア女』ムスタファ、『清教徒』ジョルジョ、『ノルマ』オロヴェーゾ、『ロメオとジュリエット』ローラン神父などがある。クラウディオ・アバド、ズービン・メータ、ケント・ナガノ、ダニエレ・ガッティ、ニコラウス・アーノンクール、アンドラーシュ・シフ、ミケーレ・マリオッティ、ダニエレ・ハーディング、ヘスス・ロペス＝コボス、ファビオ・ルイーゼらと共演、ロイヤル・フィル、ミュンヘン・フィル、イスラエル・フィルなどに招かれている。新国立劇場初登場。





主要キャスト・スタッフ プロフィール

**騎士長: 妻屋秀和**

Il Commendatore : TSUMAYAHidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイーダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』欽蔵、『リゴレット』スパラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーズルト、『ファルスタッフ』ピストーラ、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。2017/18シーズンは『アイーダ』ランフィス、『フィデリオ』ロッコに、2018/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムールにも出演予定。二期会会員。



**レポレッロ: ジョヴァンニ・フルラネット**

Leporello : Giovanni FURLANETTO

イタリア生まれ。ヴィチエンツァ・ペドロッコ音楽院に学ぶ。1998年にオペラ・フィラデルフィア・ルチアーノ・パヴァロッティ国際声楽コンクールに優勝し、国際的な活躍を始める。その後、ミラノ・スカラ座、フィレンツェ歌劇場、ザルツブルク音楽祭、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、パリ・オペラ座、シャンゼリゼ劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭、モンテカルロ歌劇場、ジュネーヴ大劇場、ブリュッセル・モネ劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、サンタフェ・オペラ、サンフランシスコ・オペラなどに出演している。モーツァルト、ロッシーニ、ドニゼッティを得意とし、『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、『フィガロの結婚』フィガロ、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『イタリアのトルコ人』セリム、『ドン・バスクワレ』タイトルロール、『ルチア』ライモンドなどを演じているほか、『アイーダ』ランフィス、『イル・トロヴァトーレ』フェランドなどにもレパートリーを広げている。新国立劇場初登場。



**ドンナ・アンナ: マリゴーナ・ケルケジ**

Donna Anna : Marigona QERKEZI

クロアチア、ザグレブ生まれ。クロアチアおよびロシアより奨学金を獲得、フルート、声楽及びビジネスマネジメントの学位を得る。これまでにスロベニア、クロアチア、マケドニア、モンテネグロ、アルバニア、ロシア、イタリア、トルコ、アメリカで演奏活動をしている。2015年にはイタリア声楽演奏会協会のオマーン・ロイヤルオペラ公演『魔笛』夜の女王でオペラ・デビューを果たす。この他アルバニア、ティラナ国立歌劇場で『フィガロの結婚』伯爵夫人を演じた。レイラ・ゲンチェル・コンクール、ミラノ・スカラ座賞ほか国際コンクールでの受賞歴も多い。最近ではカリアリ歌劇場『ルチア』タイトルロール、ペーザロ・ロッシーニ・オペラフェスティバル『ランスへの旅』モデスティーナ、バルセロナ・リセウ大劇場『ランスへの旅』コルテーゼ夫人、バーリ・ベトルツェリ劇場『ルチア』タイトルロール、『こうもり』ロザリンデなどがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

**ドンナ・エルヴィーラ: 脇園 彩**

Donna Elvira: WAKIZONO Aya

東京生まれ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。2011年にマリエッタ・デヴィーアのマスタークラスに参加。13年には「新しい声」コンクールセミファイナリストとなり、また文化庁派遣芸術家在外研修員としてバルマ・ボーイト音楽院に留学。14年にはロッシェニ・オペラ・フェスティバルのアカデミーメンバーとなり『ランスへの旅』メリベア公爵夫人を演じる。14年にはミラノ・スカラ座のアカデミーに参加、『子供のためのチェネレントラ』アンジェリーナでミラノ・スカラ座にデビューした。最近の出演にはミラノ・スカラ座アカデミー、ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、トリエステ・ヴェルディ劇場『セビリアの理髪師』ロジーナ、マルティーナ・フランカ音楽祭でのファビオ・ルイーヅ指揮、メルカダント『フランチェスカ・ダ・リミニ』バオロ（世界初演）、カリアリ歌劇場、ロッシェニ・オペラ・フェスティバル『試金石』クラリーチェなど、今後の予定にはヴェローナ・フィルハモニコ劇場『フィガロの結婚』ケルビーノ、トリエステ・ヴェルディ劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラなどがある。日本では藤原歌劇団『セビリアの理髪師』ロジーナで鮮烈なデビューを果たした。新国立劇場初登場。



**ドン・オッターヴィオ: フアン・フランシスコ・ガテル**

Don Ottavio : Juan Francisco GATELL

アルゼンチン生まれ。生地の音楽院で学んだ後、マドリッドの音楽院で学ぶ。2004年にカルソーコンクールに優勝、その後数々のコンクールで優勝している。その後ザルツブルク音楽祭、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、ロッシェニ・オペラ・フェスティバル、バルセロナ・リセウ大劇場、ネザーランド・オペラ、ローマ歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、ワシントン・オペラ、マドリッド王立劇場、チューリヒ歌劇場、ヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場、ブリュッセル・モネ劇場、テアトロ・コロソなどに出演。モーツァルト、ベルカントをレパートリーの中心とし『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェランド、『イドメネオ』イダマンテ、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『セミラーミデ』イドレーノ、『ドン・パスクアーレ』エルネストなどを歌っているほか、『放蕩者のなりゆき』トム・レイクウェル、『ロミオとジュリエット』ティボルトなども歌っている。コンサートでも活躍し、フィレンツェ五月祭音楽祭、ラヴェンナ音楽祭、ザルツブルク音楽祭でリッカルド・ムーティと共演するなど、目覚ましい活躍をしている。CD、DVDも数多い。新国立劇場初登場。



**ツェルリーナ: 九嶋香奈枝**

Zerlina : KUSHIMA Kanae

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員としてミラノに留学。2005年にはギリシャ・アテネにて『魔笛』（ミヒャエル・ハンペ演出）に招聘され出演。第54回全日本学生音楽コンクール第1位、HIMESコンクール第1位。東京二期会『魔笛』パパゲーナ、『フィガロの結婚』スザンナ、『こうもり』アデーレ、びわ湖ホール『死の都』ユリエッタ、パシフィック・ミュージック・フェスティバル『ナクソス島のアリアドネ』ナヤデなどに出演している。新国立劇場では『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』バルバリーナおよびスザンナ、『パルジファル』小姓1、『ジークフリート』森の小鳥、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』フラスキータ、『コジ・ファン・トゥッテ』（演奏会形式）デスピーナなどに出演。18/19シーズンには『魔笛』パパゲーナにも出演する。二期会会員。



# 蝶々夫人

Madama Butterfly

オペラパレス | 4回公演 | 全2幕<イタリア語上演/字幕付>

●会員先行販売期間: 2019年1/13(日)~1/22(火)

●一般発売日: 2019年1/26(土)

初演: 1904年2月17日/ミラノ・スカラ座

作曲: ジャコモ・プッチーニ

原作: デーヴィッド・ベラスコ

台本: ジュゼッペ・ジャコーザ/ルイージ・イツリカ



## プロダクションについて

明治時代の長崎を舞台に名アリア「ある晴れた日に」など豊かなメロディで彩られる『蝶々夫人』は、世界中で愛される人気作です。しかし日本人にとっては、単なる悲劇を超えた、特別なオペラといえるでしょう。実際には日本を見ることのなかったプッチーニが描く「日本」は、我々にとってもリアルで、その洞察力、想像力には驚嘆せずにはいられません。さらに新国立劇場の栗山民也演出は、国同士の関係が落とす影を色濃く感じさせる鋭さをはらんだもの。何度見ても新たな気づきが得られる名演出です。今回蝶々さんを演じるのは佐藤康子。フィレンツェ、ボローニャ、シアトルと世界中で活躍する彼女は、今日本を代表する蝶々さん歌いのひとりといえるでしょう。ピンカートン役には端正な美声でいまや一流歌劇場に欠くことのできないアメリカ人テノール、スティーヴン・コストロが初挑戦します。蝶々さんが恋する海軍士官にまさにぴったりです。指揮には経験豊かなイタリアの名匠、ドナート・レンツェッティが新国立劇場に初登場します。

## あらすじ

【第1幕】明治時代の長崎。日本滞在中、現地妻を娶ろうというアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに新居を案内され、使用人を紹介される。結婚も家もいつでも契約破棄できると豪語するピンカートン。結婚を心待ちにしている花嫁を知るアメリカ総領事シャープレスは、ピンカートンの軽薄さを心配する。花嫁行列がやってきて、美しい花嫁、蝶々さんが現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは15歳。裕福な武士の家の生まれだが父が切腹して亡くなり、今は芸者として生きている。結婚式が慎ましやかに行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2人は甘い夜を迎える。

【第2幕】ピンカートンがアメリカに帰国して3年。「駒鳥が巣を作る頃に帰る」との言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは再婚を勧めるが、蝶々さんは断る。というのも、ピンカートンとの間に子供が生まれていたのだ。帰国後ピンカートンがアメリカで本当の結婚をしたことを知るシャープレスは言葉もない。そしてついにピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花で満たして夫の到着を待つが、いつまでたってもやってこない。スズキの勧めで蝶々さんが奥の部屋で休んでいると、ピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケートが訪れる。スズキの応対で蝶々さんの思いを知ったピンカートンは、堪らず立ち去る。目覚めた蝶々さんはケートを見てすべてを悟り、子供をアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子供に別れを告げ、自決。「蝶々さん！」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。

ジャコモ・プッチーニ

# 蝶々夫人

Giacomo PUCCINI / Madama Butterfly

全2幕(イタリア語上演/字幕付)

指揮 .....	ドナート・レンツェッティ
Conductor	Donato RENZETTI
演出 .....	栗山民也
Production	KURIYAMA Tamiya
美術 .....	島 次郎
Set Design	SHIMA Jiro
衣裳 .....	前田文子
Costume Design	MAEDA Ayako
照明 .....	勝柴次朗
Lighting Design	KATSUSHIBA Jiro
蝶々夫人 .....	佐藤康子
Madama Butterfly	SATO Yasko
ピンカートン .....	スティーヴン・コステロ
Pinkerton	Stephen COSTELLO
シャープレス .....	須藤慎吾
Sharpless	SUDO Shingo
スズキ .....	山下牧子
Suzuki	YAMASHITA Makiko
ゴロー .....	晴 雅彦
Goro	HARE Masahiko
ボンゾ .....	島村武男
Lo zio Bonzo	SHIMAMURA Takeo
ヤマドリ .....	星野 淳
Il Principe Yamadori	HOSHINO Jun
	ほか
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

2019年	6月	1日(土)14:00	4日(火)14:00(貸切)
		7日(金)14:00	9日(日)14:00
オペラパレス			

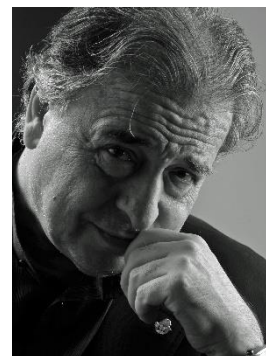
【チケット料金】 S:21,600円 ・ A:16,200円 ・ B:10,800円 ・ C:6,480円 ・ D:3,240円

## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 指揮:ドナート・レンツェッティ

Conductor: Donato RENZETTI

イタリア生まれ。1976年にレスピーギ賞受賞、また78年ジュネーヴ・アンセルメコンクールで第3位を獲得した。82～87年国際イタリア管、87～92年トスカーナ地方管、04～07年リスボン・サンカルロ歌劇場管、ロンドン響、フィルハーモニア管、東京フィル、ローマ・サンタ・チェチーリア管、07～13年マルキジアーナ・フィルの首席指揮者、15年よりジョアキーノ・ロッシーニ・フィル常任指揮者を務める。メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、ジュネーヴ大劇場、バイエルン州立歌劇場、トゥールーズ・キャピトル劇場、シカゴ・リリック・オペラ、ダラス・オペラ、サンフランシスコ・オペラ、グラインドボーン音楽祭、スポレート音楽祭、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどの重要な劇場、音楽祭に出演しており、主にヴェルディ、プッチーニをはじめとするイタリアオペラを指揮している。コンサートではロンドン響、ロンドン・フィル、ベルリン・ドイツ響、すべてのRAIのオーケストラ、ベルギー放送響などに登場、ベルマン、ブルネロ、マゴロフ、ムローヴァ、ロストロポーヴィチ、ワイセンベルクらと共演。録音も精力的に行い、シューベルト、モーツァルト、チャイコフスキー、ケルビーニなどの作品がフィリップスをはじめとするレーベルで発売されている。新国立劇場初登場。



## 演出:栗山民也

Production: KURIYAMA Tamiya

早稲田大学文学部演劇学科卒業。主な演出作品に『ゴドーを待ちながら』『阿国』『獅子を飼う』『GHETTO/ゲットー』『海の沸点』『エヴァ、帰りのない旅』『太鼓たたいて笛ふいて』『マリー・アントワネット』『ロマンス』『かもめ』『闇に咲く花』『きらめく星座』『炎の人』『組曲虐殺』『海をゆく者』『ピアフ』『敷原検校』『スリル・ミー』『もとの黙阿弥』『國語元年』『月の獣』『オレアナ』などがある。紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、毎日芸術賞千田是也賞、朝日舞台芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章などを受賞。新国立劇場では、『今宵限りは・・・』『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望という名の電車』『ピカドン・キジムナー』『夢の裂け目』『ワーニャおじさん』『櫻の園』『浮標』『涙の谷、銀河の丘』『夢の泪』『世阿弥』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『箱根強羅ホテル』『母・肝っ玉とその子どもたち』『夢の痂』『CLEANSKINS/きれいな肌』『氷屋来たる』『まほろば』『雨』『マニラ瑞穂記』『あわれ彼女は娼婦』『トロイ戦争は起こらない』オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。2000年から7シーズン新国立劇場演劇芸術監督、05～16年新国立劇場演劇研修所長。紫綬褒章受章。



## 蝶々夫人:佐藤康子

Madama Butterfly : SATO Yasko

千葉県出身。東京藝術大学首席卒業、同大学院修士・博士課程修了。日本音楽コンクール、ハイメ・アラガイ国際コンクール、トーティ・ダル・モンテ国際コンクールなど多くのコンクールで優勝。バリー・ペトルツェリ劇場、バルマ王立歌劇場、フィレンツェ歌劇場、スロベニア国立歌劇場、ギリシャ国立歌劇場などに出演している。モーツァルトからヴェリズモまで幅広いレパートリーを持ち、『オベルト』『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、『アイーダ』タイトルロールなども歌っている。プッチーニの作品は特に得意とし、『蝶々夫人』タイトルロールはバルマ王立歌劇場、フィレンツェ歌劇場などで歌い、16年にはシアトル・オペラでアメリカデビューも果たした。日本では藤原歌劇団『蝶々夫人』『トスカ』タイトルロール、『道化師』ネッダ、藤沢市民オペラ『トスカ』タイトルロール、16年NHKニューイヤーオペラコンサートなどに出演。11年五島記念文化財団オペラ新人賞受賞。新国立劇場では演奏会形式『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、同『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラに出演している。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## ピンカートン: スティーヴン・コステロ

Pinkerton : Stephen COSTELLO

アメリカ生まれ。フィラデルフィア・アカデミー・オブ・ヴォーカル・アーツに学ぶ。2007年に26歳でメトロポリタン歌劇場のシーズン初日にデビューし、注目を集める。09年にはリチャード・タッカー賞を受賞。以後、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、サンフランシスコ・オペラ、ワシントン・オペラ、ザルツブルク音楽祭などの一流歌劇場、音楽祭に出演している。リリックな役で世界中を席卷し、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『リゴレット』マントヴァ公爵、『椿姫』アルフレード、『ファウスト』タイトルロール、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『愛の妙薬』ネモリーノ、『アンナ・ボレーナ』ベルシ、『エウゲニ・オネーギン』レンスキーなどをレパートリーとしている。17/18シーズンには『メリー・ウィドウ』カミーユでパリ・オペラ座、『ファヴォリータ』フェルナンドでバルセロナ・リセウ大劇場、『ラ・ボエーム』ロドルフォでザクセン州立歌劇場にそれぞれデビュー、ほかにマドリッド王立劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、モスクワ国立フィル、ミュンヘン・フィルなどが予定されている。今回の『蝶々夫人』ピンカートンはロールデビューとなる。新国立劇場初登場。



## シャープレス: 須藤慎吾

Sharpless : SUDO Shingo

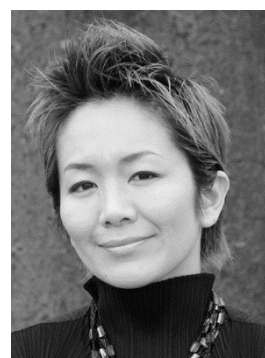
国立音楽大学卒業、同大学院修了。第37回イタリア声楽コンクールシエナ大賞、オルヴィエート国際オペラコンクール2位（イタリア）などを受賞。99年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。06年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では『椿姫』ドゥフォーール男爵、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレスに出演。国立音楽大学講師、藤原歌劇団団員。



## スズキ: 山下牧子

Suzuki : YAMASHITA Makiko

広島大学教育学部卒業、東京藝術大学大学院声楽専攻修了。第1回東京音楽コンクール第1位。これまでに『ジュリアス・シーザー』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『カルメン』タイトルロール、『サロメ』ヘロディアス等に出演の他、二期会『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネでは高い評価を得た。新国立劇場では、『カヴァレリア・ルスティカーナ』『ルル』『サロメ』『軍人たち』『リゴレット』『蝶々夫人』『ワルキューレ』『ヴォツェック』『カルメン』『沈黙』『ホフマン物語』など数多く出演。最近では『リゴレット』マッダレーナ、『ホフマン物語』アントニアの母/ステラ、『死の都』ブリギッタ、『ヴォツェック』マルグレート、『鹿鳴館』女中頭草乃、『椿姫』フローラ、『沈黙』少年、『蝶々夫人』スズキに出演している。二期会会員。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## ゴロー:晴 雅彦

Goro : HARE Masahiko

大阪音楽大学卒業。文化庁派遣芸術家在外研修員としてドイツ・ベルリンに留学。ドイツ・ケムニッツ市立劇場での『魔笛』パパゲーノでヨーロッパ・デビュー後、ザクセン州立歌劇場『蝶々夫人』ゴロー、ドイツ・ラインスベルク音楽祭、スウェーデン・ヴァドステーナ音楽祭などに出演。『魔笛』パパゲーノでチョン・ミョンフンと共演。新国立劇場では『フィガロの結婚』『ラ・ボエーム』『運命の力』『ばらの騎士』『ルル』『魔笛』『ニュルンベルクのマイスタージッター』『夜叉ヶ池』、鑑賞教室『トスカ』などに出演している。大阪音楽大学教授。



## ボンゾ:島村武男

Lo zio Bonzo : SHIMAMURA Takeo

東京藝術大学及び同大学院修了。イタリア及びミュンヘン音大に学ぶ。ブラウンシュヴァイク歌劇場と専属契約を結び、年間100回を超える公演をこなす。帰国後は『リゴレット』タイトルロールのほか、『ドン・ジョヴァンニ』『シモン・ボッカネグラ』『椿姫』『ローエングリン』『タンホイザー』『外套』『道化師』『夕鶴』などに主要な役で出演。新国立劇場では『建・TAKERU』尾足、『ラインの黄金』『ジークフリート』『神々の黄昏』アルベリヒ、『夕鶴』惣ど、『沈黙』井上筑後守、『蝶々夫人』ボンゾなどに出演。二期会会員。



## ヤマドリ:星野 淳

Il Principe Yamadori : HOSHINO Jun

北海道大学理Iを経て北海道教育大学特設音楽科を卒業。二期会オペラスタジオ第34期修了。これまでに『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』『リゴレット』『運命の力』などの主要な役を演じている。新国立劇場では『光』ミツダ、『愛怨』玄照皇帝、『道化師』シルヴィオ、『カルメン』モラレス、『黒船・夜明け』吉田、『トリスタンとイゾルデ』メロート、『沈黙』キチジロー、『鹿鳴館』清原永之輔、鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレス、鑑賞教室・関西公演『夕鶴』運ず、コンサート・オペラ『ベレアスとメリザンド』ゴローなど多数出演。二期会会員。



# トゥーランドット

Turandot

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕<イタリア語上演/字幕付>

●会員先行販売期間：2019年2/10(日)~2/26(火)

●一般発売日：2019年3/2(土)

初演：1926年4月25日/ミラノ・スカラ座

作曲：ジャコモ・プッチーニ ※フランコ・アルファーノが補筆

原作：カルロ・ゴツツィ

台本：ジュゼッペ・アダーミ/レナート・シモーニ

## プロダクションについて

“今やオペラは東京で見る時代へ”。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、オペラを国際的に発信していきたい、という大野次期監督のかねてから温めてきたアイデアがいよいよ実現することとなりました。シーズン最後を飾る大作『トゥーランドット』は東京文化会館と共同制作し、両劇場で上演するほか、びわ湖ホール、札幌文化芸術劇場と連携しての公演が実現する、日本各地を巻き込んだ大型プロジェクトです。大野自身がタクトを執り、さらに音楽監督を務めるバルセロナ交響楽団がピットに登場します。また世界的に評価の高いパフォーマンス集団ラ・フーラ・デルス・バウスを率い、バルセロナ・オリンピック開会式をはじめ多くの巨大イベントやオペラを手掛けてきたアレックス・オリエが演出に登場するのも大きな話題。豪華なキャストや、新国立劇場合唱団、藤原歌劇団合唱部、びわ湖ホール声楽アンサンブルが共演する合唱団も注目です。また2020年にはワーグナーの祝祭的な大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を同じく共同制作にて上演する予定です。

## あらすじ

【第1幕】古代の北京。戦いに敗れ、女奴隷のリュートとともに放浪中の老王ティムールは、息子の王子カラフと再会し、無事を喜び合う。皇女トゥーランドットが無言で姿を見せ、人々はひれ伏す。カラフは皇女の美しさに魅せられ、3つの謎を解き明かせば彼女が自分のものになると知り、謎に挑戦する。

【第2幕】3人の大臣が、皇女のせいで命を落とした異国の王子たちを思い返す。宮殿前の広場に人々が集まり、トゥーランドットが「謎が解けなければ死をもって報いる」と告げる。しかし、カラフはすべての謎を見事に解き明かす。狼狽する皇女に、カラフは自分の名を謎として与える。

【第3幕】皇女の命で人々は一睡もせずに異国の王子の名前を調べている。カラフが自らの決意をアリア〈誰も寝てはならぬ〉で歌い上げる。ティムールとリュートが捕えられる。リュートは「若者の名前は自分だけが知る」と訴えた後、自害する。人々が去った後、カラフは皇女に愛を語り、口づけをする。心を開いたトゥーランドットは、カラフの名を「愛」と叫ぶ。



オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇄Tokyo⇄World

ジャコモ・プッチーニ

# トゥーランドット

Giacomo PUCCINI / Turandot

全3幕(イタリア語上演/字幕付)

指揮 .....	大野和士	
Conductor	ONO Kazushi	
演出 .....	アレックス・オリエ	
Production	Alex OLLÉ	
美術 .....	アルフォンス・フローレス	
Set Design	Alfons FLORES	
衣裳 .....	リュック・カステイス	
Costume Design	Lluc CASTELLS	
照明 .....	ウルス・シェーネバウム	
Lighting Design	Urs SCHÖNEBAUM	
演出補 .....	スサナ・ゴメス	
Associate Director	Susana GÓMEZ	
トゥーランドット .....	【7月18, 20, 22日】	【7月21日】
Turandot	イレーネ・テオリン	ジェニファー・ウィルソン
	Irène THEORIN	Jennifer WILSON
カラフ .....	テオドル・イリンカイ	サイモン・オニール
Calaf	Teodor ILINCÁI	Simon O'NEILL
リユー .....	中村恵理	砂川涼子
Liù	NAKAMURA Eri	SUNAKAWA Ryoko
ティムール .....	リッカルド・ザネッラート	妻屋秀和
Timur	Riccardo ZANELLATO	TSUMAYA Hidekazu
アルトゥム皇帝 .....		持木 弘 (全日)
L'imperatore Altoum		MOCHIKI Hiroshi (All dates)
ピン .....	榎 貴志	森口賢二
Ping	MASU Takashi	MORIGUCHI Kenji
パン .....	与儀 巧	秋谷直之
Pang	YOGI Takumi	AKITANI Naoyuki
ポン .....	村上敏明	糸賀修平
Pong	MURAKAMI Toshiaki	ITOGA Shuhei
官吏 .....	豊嶋祐壹	成田 眞
Un mandarino	TOYOSHIMA Yuichi	NARITA Makoto
		ほか
合唱 .....	新国立劇場合唱団	
Chorus	New National Theatre Chorus	
	藤原歌劇団合唱部	
	Fujiwara Opera Chorus Group	
	びわ湖ホール声楽アンサンブル	
	BIWAKO HALL Vocal Ensemble	
管弦楽 .....	バルセロナ交響楽団	
Orchestra	Barcelona Symphony Orchestra	
制作: 新国立劇場/東京文化会館		

2019年	7月	18日(木) 18:30	20日(土) 14:00
		21日(日) 14:00	22日(月) 14:00
<b>オペラパレス</b>			

【チケット料金】 S:32,400円 ・ A:27,000円 ・ B:19,440円 ・ C:12,960円 ・ D:6,480円

**オペラ夏の祭典 2019-20 Japan ↔ Tokyo ↔ World**

「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan↔Tokyo↔World」は、新国立劇場と東京文化会館が、2020年に向け、日本を代表する各地の劇場と連携して2年に渡り展開する国際的なオペラプロジェクトです。2020年は、祝祭感を持つ大作『ニュルンベルクのマイスタージンガー』（ワーグナー作曲）に挑みます。

**『トゥーランドット』他劇場での公演日程**

東京文化会館：	2019年 7月12日(金)、13日(土)、14日(日)
びわ湖ホール：	2019年 7月27日(土)、28日(日)
札幌文化芸術劇場：	2019年 8月3日(土)、4日(日)

オペラ夏の祭典 2019-20 Japan↔Tokyo↔World

リヒャルト・ワーグナー

**ニュルンベルクのマイスタージンガー**

指揮 ..... Conductor	大野和士 ONO Kazushi
ハンス・ザックス ..... Hans Sachs	トーマス・ヨハネス・マイヤー Thomas Johannes MAYER
ファイト・ボーグナー ..... Veit Pogner	クワンチュル・ユン Kwangchul YOUN
ジクストゥス・ベックメッサー ..... Sixtus Beckmesser	アドリアン・エレート Adrian ERÖD
フリッツ・コートナー ..... Fritz Kothner	青山 貴 AOYAMA Takashi
ヴァルター・フォン・シュトルツィング ..... Walther von Stolzing	トミスラフ・ムツェック Tomislav MUZEK
ダーヴィット ..... David	望月哲也 MOCHIZUKI Tetsuya
エーファ ..... Eva	林 正子 HAYASHI Masako
	ほか
合唱 ..... Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
	二期会合唱団 Nikikai Chorus Group
管弦楽 ..... Orchestra	東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

制作：新国立劇場／東京文化会館

新国立劇場での公演日程： 2020年6月21日(日)、24日(水)、27日(土)、30日(火)

**【他会館での公演日程】**

東京文化会館： 2020年6月14日(日)、17日(水)

兵庫県立芸術文化センター(予定)： 2020年7月(予定)

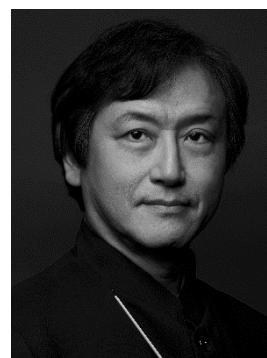
## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## 指揮:大野和士

Conductor: ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。ピアノ、作曲を安藤久義氏、指揮を遠藤雅古氏に師事。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年イタリアの「トスカニーニ国際指揮者コンクール」優勝。以後、世界各地でオペラ公演ならびにシンフォニーコンサートの客演で聴衆を魅了し続けている。90～96年クロアチア、ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年ドイツ、バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）音楽監督。12～15年イタリアのアルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団ならびにバルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年6月にミラノ・スカラ座デビュー。その後、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭への出演などが相次いでいる。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年5月、大野和士が9年間率いたリヨン歌劇場は、インターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス 2017」を獲得。6月にはフランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受勲。同時にリヨンを市からもリヨンを特別メダルが授与された。

16年9月より新国立劇場オペラ芸術参与。18年9月よりオペラ芸術監督に就任予定。



## 演出:アレックス・オリエ

Production: Àlex OLLÉ

バルセロナ生まれ。パフォーマンス集団ラ・フーラ・デルス・バウスの6人の芸術監督の一人で、同カンパニーは世界的な評価を確立した。カルルス・パドリッサと共同演出したバルセロナ・オリンピック開会式をはじめとする大規模イベントや、演劇、映画と多くの分野で活動している。近年ではオペラの演出で特に活躍し、ザルツブルク音楽祭、ウィーン芸術週間、マドリッド王立劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、パリ・オペラ座、ブリュッセル・モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ザクセン州立歌劇場、ルーヴルトリエンナーレ、ネザールランド・オペラ、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、オーストラリア・オペラなど世界中で活躍、『魔笛』『ノルマ』『仮面舞踏会』『イル・トロヴァトーレ』『ファウストの劫罰』『トリスタンとイゾルデ』『さまよえるオランダ人』『ペレアスとメリザンド』『ラ・ボエーム』『蝶々夫人』『青ひげ公の城』『消えた男の日記』『マハゴニー市の興亡』『火刑台上的ジャンヌ・ダルク』など幅広い作品を手掛けている。新国立劇場初登場。



## トウランドット(7/18,20,22):イレーネ・テオリン

Turandot : Irène THEORIN

現代を代表するドラマティックソプラノの一人として世界中で活躍している。ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ザクセン州立歌劇場、パイロイト音楽祭、バルセロナ・リセウ大劇場、ブリュッセル・モネ劇場、サンフランシスコ・オペラ、ローマ歌劇場など一流歌劇場、音楽祭に出演している。特にドイツ・オペラのドラマティックな役を得意とし『ニーベルングの指環』ブリュンヒルデ、『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、『エレクトラ』タイトルロール、『影のない女』バラクの妻などで活躍している。トウランドット役も得意とし、英国ロイヤルオペラ、サンフランシスコ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場をはじめ多くの劇場で演じている。新国立劇場には2008年『トウランドット』タイトルロール、10年『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデ、11年『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、16年『ワルキューレ』ブリュンヒルデに出演している。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## トウーランドット(7/21):ジェニファー・ウィルソン

Turandot : Jennifer WILSON

アメリカ生まれ。2002年のコネチカット・オペラ『トウーランドット』タイトルロールでオペラ・デビュー、同役ではその後もヒューストン・グランド・オペラ、サンタフェ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに出演している。また、ワーグナーを得意とし、『ニーベルングの指環』ブリュンヒルデではDVDで発売されているヴァレンシア歌劇場のほかフィレンツェ歌劇場に、『ワルキューレ』ではライブツィヒ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、また『トリスタンとイゾルデ』イゾルデではシカゴ・リリック・オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場など、『さまよえるオランダ人』ゼンタでワシントン・ナショナル・オペラ、ウィーン国立歌劇場などに出演している。『フィデリオ』レオノーレ、『影のない女』バラクの妻、『ナブッコ』アビガイル、『アイダ』タイトルロールなどもレパートリーとしている。新国立劇場では2012年『さまよえるオランダ人』ゼンタで出演。



## カラフ(7/18,20,22):テオドール・イリンカイ

Calaf: Teodor ILINCAI

ルーマニア生まれ。オーボエ、さらにビザンチン音楽、音楽教育を学んだ後、声楽に転向。2008年にブカレストのルーマニア国立歌劇場にデビューして国際的な注目を集め、以後国際的に活躍している。レパートリーには『マクベス』マクダフ、『椿姫』アルフレード、『ドン・カルロ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『トスカ』カヴァラドッシ、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥなどがあり、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ライン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ブリュッセル・モネ劇場など、一流歌劇場で活躍している。近年ではドラマティックな役柄にも進出し、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『カルメン』ドン・ホセ、『トウーランドット』カラフなどが予定されている。数々のコンクールで入賞しているほか、ルーマニア騎士章を授けられているほか、詩人としても高い評価を得ている。新国立劇場初登場。



## カラフ(7/21):サイモン・オニール

Calaf: Simon O'NEILL

ニュージーランド生まれ。今、国際的な舞台で最高のヘルデンテノールの一人としての地位を確立している。『ワルキューレ』ジークムント役では英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、ベルリン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラなどに出演、ウィーン国立歌劇場などに出演している。このほか『ローエングリン』タイトルロール、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ヴァルター・フォン・シュトルツィング、『パルジファル』タイトルロール、『さまよえるオランダ人』エリック、『神々の黄昏』ジークフリートなどのワーグナー作品のほか、『フィデリオ』フロレスタン、『魔弾の射手』『ヴォツェック』鼓手長、『トスカ』カヴァラドッシ、『オテロ』タイトルロールなどをレパートリーとし、パイロイト音楽祭、ザルツブルク音楽祭などに出演している。コンサートでも『大地の歌』、『グレの歌』、マーラー『交響曲第8番』などで活躍、ベルリン・フィル、BBCプロムス、ザルツブルク音楽祭などに登場している。CD、DVDの発売も数多い。新国立劇場には2012年『トスカ』カヴァラドッシで出演。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## リユー(7/18,20,22):中村恵理

Liù: NAKAMURA Eri

大阪音楽大学、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。08年英国ロイヤルオペラにデビュー。翌年、同劇場の『カプレーティ家とモンテッキ家』にネトレブコの代役として出演し、一躍脚光を浴びる。そののち、カーディフ国際声楽コンクールにて、歌唱賞・オーケストラ賞の両部門で本選進出。10～16年、バイエルン州立歌劇場のソリストとして専属契約。『フィガロの結婚』スザンナ役でデビュー後、ケント・ナガノ、キリル・ペトレンコ、大野和土らの指揮のもと、『魔笛』『ホフマン物語』『ヘンゼルとグレーテル』等に主要キャストとして出演。その他、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク州立劇場など客演多数。16年11月には『チェネントラ』クロリンダ役でウィーン国立歌劇場にデビューするなど活躍の場を広げている。12年度アリオン賞、15年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、17年第47回JXTG音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。大阪音楽大学客員准教授。新国立劇場では『フィガロの結婚』バルバリーナ(03、05年)、スザンナ(07、17年)、06年『イドメネオ』イーリア、07年『ファルスタッフ』ナンネッタなど出演多数。



## リユー(7/21):砂川涼子

Liù: SUNAKAWA Ryoko

武蔵野音楽大学首席卒業。同大学大学院修了。第69回日本音楽コンクール第1位ならびに海外派遣特別賞受賞。第16回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞など受賞多数。2001～2004年江副育英会オペラ奨学生として渡伊。五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞し、05年より再度留学。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで本格的なオペラ・デビュー。以後藤原歌劇団『イル・カンピエッロ』ガスバリーナ、『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・バスクワレ』ノリーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、びわ湖ホール『死の都』マリエッタ、『椿姫』ヴィオレッタ、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』アントニアなどに出演を重ね、日本を代表するソプラノの一人として活躍中。新国立劇場では『トウランドット』リユー、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『魔笛』パミーナ、『夜叉ヶ池』百合、『ウェルテル』ソフィーなど出演。2017/18シーズンは『ホフマン物語』アントニア、2018/19シーズンはほかに『カルメン』ミカエラ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタに出演予定。武蔵野音楽大学非常勤講師。藤原歌劇団団員。



## ティムール(7/18,20,22):リッカルド・ザネッラート

Timur: Riccardo ZANELLATO

イタリア生まれ。重要なバスの役で常に名前が上がる歌手の一人である。リッカルド・ムーティによりローマ歌劇場に定期的に招かれているほか、ミラノ・スカラ座、トリノ王立歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭、パレルモ・マッシモ歌劇場、パルマ・ヴェルディ音楽祭、ヴァレンシア歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、ネザールランド・オペラ、ペーザロ・ロッシーニ・フェスティバル、ナポリ・サンカルロ歌劇場、チューリヒ歌劇場、フランダース・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演、『モイーズとファラオン』モーゼ、『ナブッコ』ザッカーリア、『シモン・ボッカネグラ』ヤコボ・フィエスコ、『アッティラ』タイトルロール、『アイーダ』ランフィス、『マクベス』バンクォー、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『アンナ・ボレーナ』エンリーコ、『ラ・ボエーム』コッリーネなどをレパートリーとしている。コンサートでも活躍し、特にヴェルディ『レクイエム』では世界各地に出演、多くの著名な指揮者と共演している。新国立劇場初登場。



## 主要キャスト・スタッフ プロフィール

## ティムール(7/21):妻屋秀和

Timur: TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ペルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スバラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『ファルスタッフ』ピストーラ、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。2017/18シーズンは『アイダ』ランフィス、『フィデリオ』ロッコに、2018/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長にも出演予定。二期会会員。



## 管弦楽:バルセロナ交響楽団

Orchestra: Barcelona Symphony Orchestra

1944年創立。2015年9月から大野和士が音楽監督を務めている。70年以上の歴史を通して、世界的に著名なソリストと共にファリャ、ビゼー、ロドリゴらの作品に焦点を当てた録音をリリースした。ツアーも重要なプロジェクトのひとつであり、カーネギーホールなど世界的に著名なホールへの客演やロイヤル・アルバート・ホールで開催されるBBCプロムスなど国際的な音楽祭に出演している。リセウ大劇場のオペラ公演にも定期的に参加しており、近年ではプロコフィエフ『賭博師』、R.シュトラウス『ダフネ』、モーツァルト『魔笛』、ワーグナー『リエンツィ』、プッチーニ『外套』などに出演した。クラシック音楽から現代音楽まですべてのジャンル、とりわけカタルーニャ地方の作曲家の作品の普及に努めている。2019年の来日は実に24年ぶりとなる。



# Opera

## 平成 30 年度公演 〈2演目8公演〉

2018 年 7 月  
平成 30 年度  
新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室

### トスカ

---

Tosca | G. プッチーニ  
6回公演

2018 年 10 月  
平成 30 年度  
新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演

### 魔笛

---

Die Zauberflöte | W. A. モーツァルト  
2回公演

# トスカ

Tosca

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕〈イタリア語上演／字幕付〉

●前売開始：2018年6/10(日)

初演：1900年1月14日／コスタンツィ劇場（ローマ）  
作曲：ジャコモ・プッチーニ  
原作：ヴィクトリアン・サルドウ  
台本：ジュゼッペ・ジャコーザ／ルイージ・イッリカ



## プロダクションについて

平成10年より始まりました「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は今年で21回目を迎えます。

平成30年度（2018年）オペラ鑑賞教室は、プッチーニの作品でも特に人気の高いオペラ『トスカ』を上演します。マダウ＝ディアツ演出は作品の神髄をイタリアの伝統的な演出手法で描いています。第1幕終盤の〈テ・デウム〉をはじめとして、19世紀ローマを模した荘厳重厚な舞台や衣裳が大きな見どころで、新国立劇場のレパートリーの中でも屈指の人気を誇ります。

新国立劇場音楽チーフの城谷正博が指揮を務めます。

## あらすじ

【第1幕】旧王制派の警視総監スカルピアの恐怖政治下の1800年6月17日のローマ。共和派で画家のカヴァラドッシが教会で MARIA 像を描いていると、アンジェロッティが脱獄して逃げてくる。カヴァラドッシは再会を喜ぶが、恋人のトスカが来るので、慌てて彼を礼拝堂に隠す。トスカは描きかけの MARIA 像が侯爵夫人にそっくりだと嫉妬するが、カヴァラドッシになだめられ教会を去る。彼らが隠れ家に向った後、スカルピアが教会にやってくる。脱獄犯をかくまった証拠をつかんだスカルピアは、嫉妬深いトスカを利用して二人の行方を突きとめようとする。

【第2幕】スカルピアの執務室にカヴァラドッシが連行される。アンジェロッティの居場所を白状しない彼は、拷問部屋へ連れていかれる。トスカは拷問を受ける彼のうめき声を聞き、アンジェロッティの居場所を告白してしまう。カヴァラドッシを助けてほしいとトスカが懇願すると、スカルピアは代わりにトスカ自身を要求。トスカは泣く泣く受け入れる。スカルピアは、形だけの死刑執行をするため、空砲で銃殺刑を行うと約束する。納得したトスカは出国のための通行証書を要求。書き終えたスカルピアがトスカを抱こうとしたとき、「これがトスカの口づけよ」とトスカはスカルピアを刺し、部屋を去る。

【第3幕】牢獄のカヴァラドッシのもとをトスカが訪れ、スカルピアを殺したこと、刑は見せかけであることを説明。死刑執行のときを迎える。銃声が鳴り響き、地面に崩れ落ちるカヴァラドッシ。トスカが駆け寄ると、彼は命尽きていた。そのときスカルピア殺害も発覚。追い詰められたトスカは、聖アンジェロ城から身を投げる。



平成 30 年度 新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室

ジャコモ・プッチーニ

トスカ

Giacomo PUCCINI / Tosca

全3幕(イタリア語上演/字幕付)

指揮 .....	城谷正博	
Conductor	JOYA Masahiro	
演出 .....	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	
Production	Antonello MADAU-DIAZ	
美術 .....	川口直次	
Set Design	KAWAGUCHI Naoji	
衣裳 .....	ピエール・ルチアーノ・カヴァッロツティ	
Costume Design	Pier Luciano CAVALLOTTI	
照明 .....	奥畑康夫	
Lighting Design	OKUHATA Yasuo	
	(7月6, 10, 14日)	(7月9, 11, 13日)
トスカ .....	小林厚子	木下美穂子
Tosca	KOBAYASHI Atsuko	KINOSHITA Mihoko
カヴァラドッシ .....	村上敏明	樋口達哉
Cavaradossi	MURAKAMI Toshiaki	HIGUCHI Tatsuya
スカルピア .....	須藤慎吾	谷 友博
Scarpia	SUDO Shingo	TANI Tomohiro
アンジェロツティ .....	久保田真澄	友清 崇
Angelotti	KUBOTA Masumi	TOMOKIYO Takashi
スポレッタ .....	今尾 滋	倉石 真
Spoletta	IMAO Shigeru	KURAIISHI Makoto
シャルローネ .....	大塚博章	安東玄人
Sciarrone	OTSUKA Hiroaki	ANDO Gento
堂 守 .....	志村文彦	峰 茂樹
Il Sagrestano	SHIMURA Fumihiko	MINE Shigeki
		ほか
合唱 .....	新国立劇場合唱団	
Chorus	New National Theatre Chorus	
	びわ湖ホール声楽アンサンブル	
	BIWAKO HALL Vocal Ensemble	
管弦楽 .....	東京フィルハーモニー交響楽団	
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra	

助 成: 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

協 賛: **ローム株式会社**  **損保ジャパン日本興亜**

2018年	7月	6日(金)13:00	9日(月)13:00
		10日(火)13:00	11日(水)13:00
		13日(金)13:00	14日(土)13:00
<b>オペラパレス</b>			

【チケット料金】 2,160円(高校生のみ)

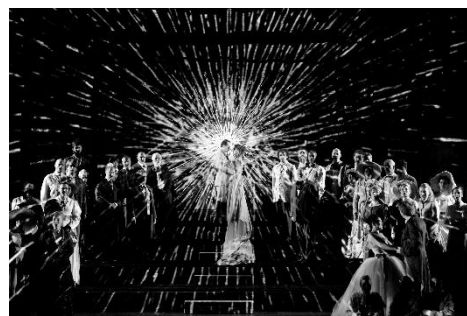
当日料金: 2,160円(高校生以下) / 4,320円(一般)

# 魔笛

Die Zauberflöte

ロームシアター京都 メインホール | 2回公演 | 全2幕(ドイツ語上演/字幕付)

初演:1791年9月30日/アウフ・デア・ヴィーデン劇場  
作曲:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト  
台本:エマヌエル・シカネーダー



La Flûte enchantée (Die Zauberflöte) by W. A. Mozart  
© Elisabeth Carecchio - Festival d'Aix-en-Provence 2009

## プロダクションについて

「高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演」は平成20年より始まり、今年で11回目を迎えます。

28年度より会場をロームシアター京都へ移し、平成30年(2018年)の公演は、モーツァルトの傑作『魔笛』を鑑賞教室公演では初めて上演いたします。“ジングシュピール”(歌芝居)として親しみやすいこの作品は、「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲から、夜の女王の歌う有名なアリア「地獄の復讐はわが心に燃え」等、聴きどころが満載です。

オペラ次期芸術監督大野和士が就任する同月のシーズン公演で、新制作上演されるウィリアム・ケントリッジ演出のプロダクション。指揮は園田隆一郎、管弦楽は京都市交響楽団です。

## あらすじ

【第1幕】森で大蛇に襲われ、恐ろしさの余り気絶してしまった王子タミーノ。そこに夜の女王に仕える3人の侍女がやってきて大蛇を退治し立ち去る。タミーノが目覚めると大蛇が死んでいるのにびっくり。やってきた鳥さしのパパゲーノに尋ねてみると、大蛇を退治したのは自分だと誇らしげに語る。が、それは嘘で、罰として3人の侍女がパパゲーノの口に鍵をかけてしまう。3人の侍女は、夜の女王の娘パミーナの肖像画をタミーノに見せ、邪悪なザラストロにさらわれた彼女を救ってほしいと願う。パミーナに一目惚れしたタミーノは引き受ける。お礼に夜の女王は、タミーノに魔法の笛、口の鍵の解けたパパゲーノに銀の鈴を授ける。

ザラストロの神殿にいるパミーナのもとにパパゲーノが行き、タミーノが助けにくることを伝える。喜ぶパミーナ。タミーノは神殿の門に到着するが、弁者によれば、ザラストロは暴君ではなく賢人で、高慢な夜の女王からパミーナをかくまっているのだという。そしてザラストロが登場。タミーノとパパゲーノは神殿に招き入れられる。

【第2幕】タミーノは、徳と正義を得るため神殿で試練を受けることに。これを経れば妻に会えると言われたパパゲーノも、しぶしぶ承諾する。一方パミーナのもとには夜の女王が現れ、ザラストロを殺せ、と命じて短剣を渡す。悩むパミーナに、ザラストロは、神殿では愛だけが暴力に打ち勝つ、と語る。タミーノとパパゲーノの最初の試練は、喋ってはいけない「沈黙」の試練。タミーノはパミーナとも喋れず、次の試練のため彼女と別れねばならない。彼の態度にパミーナは絶望して自殺をはかるが、3人の童子が止める。その後タミーノとパミーナは再会し、最後の「火」「水」の試練を2人で乗り越える。女房がほしいとぼやくパパゲーノは試練などお構いなしたが、努力は認められ、伴侶のパパゲーノと出会う。夜の女王たちは滅び、ザラストロ、タミーノ、パミーナたちは神を讃える。

平成 30 年度 新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

魔笛

Wolfgang Amadeus MOZART / Die Zauberflöte

全2幕(ドイツ語上演/字幕付)

指揮 .....	園田隆一郎
Conductor	SONODA Ryuichiro
演出 .....	ウィリアム・ケントリッジ
Production	William KENTRIDGE
美術 .....	ウィリアム・ケントリッジ、ザビーネ・トイニッセン
Set Design	William KENTRIDGE, Sabine THEUNISSEN
衣裳 .....	グレタ・ゴアリス
Costume Design	Greta GOIRIS
照明 .....	ジェニファー・ティプトン
Lighting Design	Jennifer TIPTON
ザラストロ .....	長谷川 顕
Sarastro	HASEGAWA Akira
タミーノ .....	鈴木 准
Tamino	SUZUKI Jun
弁者・武士II .....	成田 眞
Sprecher und zweiter Geharnischter	NARITA Makoto
僧侶・武士I .....	秋谷直之
Eingeweihter und erster Geharnischter	AKITANI Naoyuki
夜の女王 .....	安井陽子
Königin der Nacht	YASUI Yoko
パミーナ .....	林 正子
Pamina	HAYASHI Masako
侍女I .....	増田のり子
Erste Dame	MASUDA Noriko
侍女II .....	小泉詠子
Zweite Dame	KOIZUMI Eiko
侍女III .....	山下牧子
Dritte Dame	YAMASHITA Makiko
パパゲーナ .....	九嶋香奈枝
Papagena	KUSHIMA Kanae
パパゲーノ .....	吉川健一
Pagageno	YOSHIKAWA Kenichi
モノスタス .....	升島唯博
Monostatos	MASUJIMA Tadahiro
合唱 .....	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽 .....	京都市交響楽団
Orchestra	Kyoto Symphony Orchestra

ほか

主 催: 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場

助 成: 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

協 賛: **ローム株式会社**

Production of Aix-en-Provence Festival and Rouen Opera, created at Théâtre de la Monnaie in 2005

2018年 10月 29日(月)13:00 / 31日(水)13:00

ロームシアター京都 メインホール

【チケット料金】 2,160円(高校生のみ) 当日料金:2,160円(高校生以下)/4,320円(一般)

# Opera

公演一覧

開場記念公演～2017/2018 シーズン

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU*	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	1997. 10/10
	ローエングリン*	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	1997. 11/22
	アイーダ*	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバロ	フランコ・ゼッフィレッリ	1998. 1/15
1998/ 1999	蝶々夫人*	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 4/08
	魔笛*	W.A.モーツァルト	大野和士	ミヒヤエル・ハンベ	1998. 5/06
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	1998. 6/18
	アラベッラ*	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	1998. 9/19
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1998. 10/09
	ヘンゼルとグレーテル*	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	1998. 11/27
	カルメン*	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	1999. 1/19
	天守物語*	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	1999. 2/13
	こうもり*	J.シュトラウス II 世	北原幸男	寺崎裕則	1999. 4/21
罪と罰*	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	1999. 6/18	
1999/ 2000	仮面舞踏会*	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ	1999. 9/21
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1999. 11/06
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュティ	栗山昌良	1999. 12/18
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	2000. 1/16
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロリ	栗國 淳/ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	2000. 2/20
	沈黙*	松村禎三	星出 豊	中村敬一	2000. 3/16
	サロメ*	R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファーディング	2000. 4/11
	ドン・キホット*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	2000. 5/07
	リゴレット*	G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッシーニ	2000. 6/11
2000/ 2001	トスカ*	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2000. 9/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミヒヤエル・ハンベ	2000. 10/10
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ボクロフスキー/ヴェラ・カルパチョワ	2000. 10/30
	青ひげ公の城*	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2000. 11/24
	夕鶴*	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	2000. 12/02
	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	2001. 1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 2/05
	ラインの黄金*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2001. 3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	2001. 5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	2001. 6/07
	マノン*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ボネル	2001. 7/05
2001/ 2002	トゥーランドット*	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	2001. 9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2001. 11/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	2001. 11/16
	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 12/06
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	2002. 1/10
	忠臣蔵*	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	2002. 1/25
	ウェルテル*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	2002. 2/21
	ワルキューレ*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2002. 3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファーディング	2002. 5/01
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2002. 5/02
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2002. 6/07

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2002/ 2003	椿姫*	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	2002. 9/05
	ルチア*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴァンチェンツォ・グリゾストミ・トラヴァーニ	2002. 10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2002. 10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレツラ	アルベルト・ファッシーニ	2002. 11/21
	ナクソス島のアリアドネ*	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	2002. 12/12
	光*	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	2003. 1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	2003. 1/31
	ジークフリート*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2003. 3/27
	ラ・ボエーム*	G.プッチーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2003. 4/19
	オテロ*	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	2003. 6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッリ	2003. 9/14
2003/ 2004	フィガロの結婚*	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2003. 10/10
	トスカ	G.プッチーニ	ジェラール・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2003. 11/09
	ホフマン物語*	G.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2003. 11/28
	鳴神／俊寛*	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	2004. 1/30
	スペインの燦き*	M.ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	2004. 2/18
	サロメ	R.シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファーディンク	2004. 2/27
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2004. 3/26
	マクベス*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	2004. 5/13
	ファルスタッフ*	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2004. 6/25
	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 6/28
	2004/ 2005	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師*	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ
ラ・ボエーム		G.プッチーニ	井上道義	粟國 淳	2004. 9/25
エレクトラ*		R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	2004. 11/11
椿姫		G.ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	2004. 11/22
マクベス		G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	2005. 1/17
ルル*		A.ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・バウントニー	2005. 2/08
おさんー「心中天網島」より*		久保摩耶子	神田慶一	粟國 淳	2005. 2/25
コジ・ファン・トゥッテ*		W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レブシュレーガー	2005. 3/21
フィガロの結婚		W.A.モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	2005. 4/07
フィデリオ*		L.v.ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2005. 5/28
蝶々夫人*		G.プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	2005. 6/24
2005/ 2006	ニルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	2005. 9/14
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2005. 10/14
	アンドレア・シェニエ*	U.ジヨルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	2005. 11/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2005. 11/27
	魔笛	W.A.モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	2006. 1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レブシュレーガー	2006. 2/04
	愛怨*	三木 稔	大友直人	恵川智美	2006. 2/17
	運命の力*	G.ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	2006. 3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイーダ	グリシャ・アサガロフ	2006. 4/05
	こうもり*	J.シュトラウスⅡ世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	2006. 6/14

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2006/ 2007	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 9/07
	イドメネオ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	2006. 10/20
	フィデリオ	L.v.ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 11/30
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	ミケーレ・カルツリ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2006. 12/01
	さまよえるオランダ人*	R.ワーグナー	ミヒヤエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2007. 2/25
	運命の力	G.ヴェルディ	マウリツィオ・パルパチーニ	エミリオ・サージ	2007. 3/15
	蝶々夫人	G.プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	2007. 3/22
	西部の娘*	G.プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2007. 4/15
	ばらの騎士*	R.シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/06
ファルスタッフ	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/13	
2007/ 2008	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦*	R.ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	2007. 10/08
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2007. 10/18
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 11/25
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	マウリツィオ・パルパチーニ	栗國 淳	2008. 1/20
	サロメ	R.シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファーディング	2008. 2/03
	黒船 一夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	2008. 2/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼッフィレッツィ	2008. 3/10
	魔弾の射手*	C.M.v.ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	2008. 4/10
	軍人たち*	B.A.ツインマーマン	若杉 弘	ヴァイリー・デッカー	2008. 5/05
椿姫	G.ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	2008. 6/05	
2008/ 2009	トゥーランドット*	G.プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	2008. 10/01
	リゴレット	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2008. 10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	グリシャ・アサガロフ	2008. 12/05
	蝶々夫人	G.プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	2009. 1/12
	こうもり	J.シュトラウス II 世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	2009. 1/27
	ラインの黄金	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 3/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 4/03
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D.ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	2009. 5/01
	チェネントラ*	G.ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ボネル	2009. 6/07
修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	2009. 6/25	
2009/ 2010	オテロ*	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	2009. 9/20
	魔笛	W.A.モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒヤエル・ハンペ	2009. 10/29
	ヴォツェック*	A.ベルク	ハルトムート・ヘンヒェン	アンドレアス・クリーゲンブルク	2009. 11/18
	トスカ	G.プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2009. 12/02
	ジークフリート	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 2/11
	神々の黄昏	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 3/18
	愛の妙薬*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	2010. 4/15
	影のない女*	R.シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	2010. 5/20
	カルメン	G.ビゼー	マウリツィオ・パルパチーニ	鶴山 仁	2010. 6/10
鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鶴山 仁	2010. 6/24	
2010/ 2011	アラベッラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	2010. 10/02
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ミヒヤエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	2010. 10/10
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダノー	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2010. 11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2010. 12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	2011. 2/04
	椿姫	G.ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	2011. 2/14
	マノン・レスコー*(公演中止)	G.プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R.シュトラウス	マンフレッド・マイヤー＝ホーファー	ジョナサン・ミラー	2011. 4/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	ダミアノ・ミキエレット	2011. 5/29
蝶々夫人	G.プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	2011. 6/06	

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2011/ 2012	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ペーター	2011. 10/02
	サロメ	R.シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファーディング	2011. 10/09
	ルサルカ*	A.ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラン	2011. 11/23
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	2011. 12/01
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	コンスタンティン・トリックス	粟國 淳	2012. 1/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2012. 2/15
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 3/08
	オテロ	G.ヴェルディ	ジャン・レイサム＝ケーニック	マリオ・マルトーネ	2012. 4/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	エンリケ・マツツォーラ	グリシャ・アサガロフ	2012. 4/19
	ローエングリン*	R.ワーグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 6/01
2012/ 2013	ピーター・グライムズ*	B.ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	2012. 10/02
	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2012. 11/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシニ	カルロ・モンタナーロ	ヨーゼフ・E.ケツプリンガー	2012. 11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R.ワーグナー	コンスタンティン・トリックス	ハンス＝ペーター・レーマン	2013. 1/23
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チャーザレ・リエヴィ	2013. 1/31
	アイーダ	G.ヴェルディ	ミヒャエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレッリ	2013. 3/11
	魔笛	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒャエル・ハンペ	2013. 4/14
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	2013. 5/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	イヴ・アベル	ダミアノ・ミキエレット	2013. 6/03
	夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	2013. 6/25
2013/ 2014	リゴレット*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	アンドレアス・クレーゲンブルク	2013. 10/03
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2013. 10/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2013. 11/28
	カルメン	G.ビゼー	アイナルス・ルビキス	鶴山 仁	2014. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ケリー＝リン・ウィルソン	栗山民也	2014. 1/30
	死の都*	E.W.コルンゴルト	ヤロスラフ・キズリンク	カスパー・ホルテン	2014. 3/12
	ヴォツェック	A.ベルク	ギュンター・ノイホルト	アンドレアス・クレーゲンブルク	2014. 4/05
	カヴァレリア・ルスティカーナ /道化師*	P.マスカーニ/ R.レオンカヴァッロ	レナート・バルンボ	ジルベール・デフロ	2014. 5/14
	アラベッラ	R.シュトラウス	ベルトラン・ド・ビリー	フィリップ・アルロー	2014. 5/22
	鹿鳴館	池辺晋一郎	飯森範親	鶴山 仁	2014. 6/19
2014/ 2015	パルジファル*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ハリー・クプファー	2014. 10/02
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	グリシャ・アサガロフ	2014. 10/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2014. 11/27
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2015. 1/18
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2015. 1/29
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	ピエール・ジョルジョ・モランディ	ジルベール・デフロ	2015. 3/09
	運命の力	G.ヴェルディ	ホセ・ルイス・ゴメス	エミリオ・サージ	2015. 4/02
	椿姫*	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ヴァンサン・ブサール	2015. 5/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	シュテファン・ショルテス	ジョナサン・ミラー	2015. 5/24
	沈黙	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2015. 6/27
2015/ 2016	ラインの黄金*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2015. 10/01
	トスカ	G.プッチーニ	エイヴィン・グルベルグ・イェンセン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2015. 11/17
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ジョナサン・ミラー	2015. 12/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	ロベルト・パーテルノストロ	ミヒャエル・ハンペ	2016. 1/24
	イエヌーフア*	L.ヤナーチェク	トマーシュ・ハヌス	クリストフ・ロイ	2016. 2/28
	サロメ	R.シュトラウス	ダン・エッティンガー	アウグスト・エファーディング	2016. 3/06
	ウェルテル*	J.É.F.マスネ	エマニュエル・プラツソン	ニコラ・ジョエル	2016. 4/03
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	ヤデル・ピニャミーニ	フィリップ・アルロー	2016. 4/14
	ローエングリン	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2016. 5/23
	夕鶴	團 伊玖磨	大友直人	栗山民也	2016. 7/01

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2016/ 2017	ワルキューレ*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2016. 10/02
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・アリヴァベーニ	粟國 淳	2016. 11/17
	セビリアの理髪師	G.ロッシニ	フランチェスコ・アンジェリコ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2016. 11/27
	カルメン	G.ビゼー	イヴ・アベル	鶴山 仁	2017. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	フィリップ・オーギャン	栗山民也	2017. 2/02
	ルチア*	G.ドニゼッティ	ジャンパオロ・ピザンティ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2017. 3/14
	オテロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マリオ・マルトーネ	2017. 4/09
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	アンドレアス・ホモキ	2017. 4/20
	ジークフリート*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 6/01
2017/ 2018	神々の黄昏*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 10/01
	椿姫	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	ヴァンサン・ブザール	2017. 11/16
	ばらの騎士	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ジョナサン・ミラー	2017. 11/30
	こもり	J.シュトラウス II 世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2018. 1/18
	松風*	細川俊夫	デヴィッド・ロバート・コールマン	サシャ・ヴァルツ	2018. 2/16
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	セバスティアン・ルラン	フィリップ・アルロー	2018. 2/28
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ギレルモ・ガルシア・カルヴォ	チェーザレ・リエヴィ	2018. 3/14
	アイーダ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	フランコ・ゼッフィレッリ	2018. 4/05
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	飯守泰次郎	カタリーナ・ワーグナー	2018. 5/20
	トスカ	G.プッチーニ	ロレンツォ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018. 7/01

★＝新制作



### 〈地域招聘公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 17 年度	沈黙(ザ・カレッジ・オペラハウス)	松村禎三	山下一史	中村敬一	2005. 9/16
平成 18 年度	フィガロの結婚(ひろしまオペラハウス)	W.A.モーツァルト	デリック・イノウエ	岩田達宗	2006. 10/15
平成 19 年度	ナクソス島のアリアドネ(関西二期会)	R.シュトラウス	飯守泰次郎	松本重孝	2008. 1/25
平成 21 年度	月を盗んだ話(札幌室内歌劇場)	C.オルフ	柳澤寿男	中津邦仁	2010. 1/13
平成 23 年度	鳴砂(仙台オペラ協会)	岡崎光治	山下一史	岡崎光治	2011. 7/30
平成 25 年度	三文オペラ(びわ湖ホール)	K.ワイル	園田隆一郎	栗山昌良	2013. 7/12
平成 27 年度	いのち(長崎県オペラ協会)	錦かよ子	星出 豊	星出 豊	2015. 7/25
平成 29 年度	ミカド(びわ湖ホール)	A.サリヴァン	園田隆一郎	中村敬一	2017. 8/26

### 〈小劇場オペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	オルフェオとエウリディーチェ	C.W.グルック	佐藤正浩	岩田達宗	2000. 6/25
	幸せな間違い	G.ロッシーニ	星出 豊	粟國 淳	2000. 9/07
	アブ・ハッサン／オペラの稽古	C.M.v.ウェーバー／ A.ロルツィング	三澤洋史	井上 光	2000. 12/23
平成 13 年度	ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2001. 4/19
	花言葉	R.ロッセリーニ	宮松重紀	今井伸昭	2001. 10/11
	賢い女	C.オルフ	時任康文	伊藤明子	2002. 2/07
平成 14 年度	シャーロック・ホームズの事件簿(告白)	原 嘉壽子	樋本英一	岩田達宗	2002. 4/25
	なりゆき泥棒	G.ロッシーニ	佐藤 宏	恵川智美	2002. 9/12
	無人島	F.J.ハイドン	山上純司	井原広樹	2003. 1/23
平成 15 年度	ドン・ジョヴァンニ	G.ガッツァーニ	松岡 究	今井伸昭	2003. 5/15
	イタリアのモーツァルト	W.A.モーツァルト	平井秀明	恵川智美	2003. 11/13
	外套	G.プッチーニ	神田慶一	粟國 淳	2004. 2/05
平成 16 年度	友人フリッツ	P.マスカーニ	渡邊一正	高岸未朝	2004. 6/10
	ザザ	R.レオンカヴァッロ	服部譲二	恵川智美	2005. 3/03
平成 17 年度	セルセ	G.F.ヘンデル	平井秀明	三浦安浩	2006. 1/12
平成 18 年度	フラ・ディアボロ	D.F.E.オベール	城谷正博	田尾下 哲	2007. 2/15

### 〈演奏会形式公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 20 年度	コンサート・オペラ ベレアスとメリザンド	C.A.ドビュッシー	若杉 弘	若杉 弘(舞台構成)	2008. 6/28
平成 21 年度	コンサート・オペラ ポッペアの戴冠	C.モンテヴェルディ	鈴木雅明	鈴木優人・田村吾郎	2009. 5/15
平成 23 年度	コジ・ファン・トゥッテ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2011. 5/15
平成 24 年度	ドン・ジョヴァンニ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2012. 4/03
平成 26 年度	さまよえるオランダ人(演奏会形式)	R.ワーグナー	城谷正博		2015. 1/16
平成 29 年度	「ジークフリート」ハイライトコンサート -邦人歌手による-	R.ワーグナー	城谷正博		2017. 5/17

### 〈はじめてのオペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 19 年度	カルメン ～楽しいトークとハイライト上演～	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 12/02

〈高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 10 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 7/15
平成 11 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	星出 豊	栗山昌良	1999. 7/13
平成 12 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	福森 湘	栗山昌良	2000. 7/12
平成 13 年度	トスカ	G.プッチーニ	村中大祐	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2001. 7/10
平成 14 年度	トスカ	G.プッチーニ	井崎正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2002. 7/12
平成 15 年度	トスカ	G.プッチーニ	佐藤正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2003. 7/11
平成 16 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 7/12
平成 17 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2005. 7/11
平成 18 年度	カヴァレリア・ルスティカーナ	P.マスカーニ	岡本和之	グリシャ・アサガロフ	2006. 7/10
平成 19 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2007. 7/09
平成 20 年度	椿姫	G.ヴェルディ	城谷正博	ルーカ・ロンコーニ	2008. 7/11
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2008. 11/13
平成 21 年度	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2009. 7/10
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2009. 10/15
平成 22 年度	カルメン	G.ビゼー	石坂 宏	鶴山 仁	2010. 7/12
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2010. 10/27
平成 23 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山民也	2011. 7/11
	愛の妙薬(関西公演)	G.ドニゼッティ	石坂 宏	チェーザレ・リエヴィ	2011. 10/26
平成 24 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	石坂 宏	栗國 淳	2012. 7/12
	愛の妙薬(関西公演)	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2012. 10/24
平成 25 年度	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2013. 7/10
	夕鶴(関西公演)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2013. 10/30
平成 26 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2014. 7/09
	夕鶴(関西公演)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2014. 11/05
平成 27 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	石坂 宏	栗山民也	2015. 7/10
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2015. 10/27
平成 28 年度	夕鶴	團 伊玖磨	城谷正博	栗山民也	2016. 7/09
	フィガロの結婚(関西公演)	W.A.モーツァルト	広上淳一	アンドレアス・ホモキ	2016. 10/26
平成 29 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2017. 7/10
	蝶々夫人(関西公演)	G.プッチーニ	高関 健	栗山民也	2017. 10/30

〈こどものためのオペラ劇場〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 16 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2004. 8/06
平成 17 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2005. 7/30
平成 18 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2006. 7/28
平成 19 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2007. 7/28
平成 20 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2008. 7/25
平成 21 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2009. 7/24
平成 23 年度	パルジファルとふしぎな聖杯	R.ワーグナー 「パルジファル」による	三澤洋史 (編曲・指揮・台本)	三浦安浩(演出)	2011. 7/22

---

# MEMO

---

# MEMO